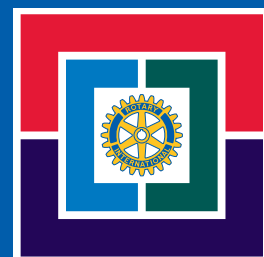


2009年国際協議会

2009年1月18日～25日・米国カリフォルニア州サンディエゴ

講演集



目次

ロータリーの未来はあなたの手の中に	1
ジョン・ケニー RI会長エレクト	
会員増強	4
李 東建 RI会長	
水、保健と飢餓追放	6
ロン・デンハム ロータリアン行動グループ委員会副委員長	
識字率向上	10
デイビッドW.ファウラー RIBI副会長	
今日における私たちのロータリー財団.....	12
ジョナサン・マジアベ ロータリー財団管理委員長	
未来の夢計画	15
ロン・バートン ロータリー財団副管理委員長	
2009-10年度のロータリー財団目標	18
グレン E. エステス・シニア ロータリー財団管理委員長エレクト	
「毎年あなたも100ドルを」が意味すること	21
ブレンダ・クレシー ロータリー財団地域コーディネーター	
皆さまのRI事務局	24
エド・フタ(布田) 国際ロータリー事務総長	
職業奉仕: 忘れ去られた部門	26
ラジェンドラK. サブー 元RI会長	

青少年への奉仕	31
フレデリッヒ・ネダマイヤー RI研修リーダー	
ロータリーの公共イメージはあなたから	33
ボブ・エイトケン 公共イメージ支援グループ・ゼネラル・コーディネーター	
リーダーシップ	37
ルイス・ピセンテ・ジアイ 元RI会長	
閉会の挨拶	40
李 東建 RI会長	
閉会の辞.....	42
ジョン・ケニー RI会長エレクト	

配偶者プログラム

奉仕のパートナー.....	44
セリア・クルズ・デ・ジアイ 元地区ガバナー	
繁栄への懸け橋.....	47
ファリー・モイニ ラ・ホヤ・ゴールデン・トライアングル・ロータリー・クラブ(米国)	
貧困を知ろう、一人ずつこどもの生活を変えていこう	51
ディーバ・ウィリングム 地区ガバナー・ノミニー / PACEインターナショナル創設者	

ロータリーの未来はあなたの手の中に

ジョン・ケニー
RI会長エレクト

ただいま、この会場を見渡し、私が目にはしているのは未来、ロータリーの未来です。地球上にくまなく存在する3万3千の地域社会の未来です。私には、その未来が、そしてよりよい世界への希望が見えます。

96年前の1913年、ニューヨークのバッファローで開かれたロータリー大会で、ポール・ハリスはこのように言いました。「よきロータリアンとなるには、昨日より今日のほうが多くの努力を伴います。そして、今日より明日のほうがもっと多くの努力を求められるでしょう」皆さんがそのロータリアンです。ロータリーの明日のリーダーです。1913年にポール・ハリスがロータリアンに向かって発したこの言葉が、今、皆さんに向けられています。

毎年、ロータリー指導者のバトンが次期ロータリー指導者へと引き継がれます。ポール・ハリスが後継者に渡したバトンが、私たちに回ってきたのです。私たちは、バトンを渡し続けてきた過去の指導者たち、そしてすべてのロータリアンに対して、その信頼を裏切ることなく務めをまっとうする責任を担っています。

そのために、私たちはここサンディエゴに集まったのです。皆さんは、今週の目標を高らかに謳う「入りて学び、出でて奉仕せよ」のバナーをご覧になったでしょうか。

私たちは、知識と経験を分かち合うために、世界の各地から集まってきました。幾世代にもわたって受け継がれてきたロータリー指導者の伝統の一部となるため、新しい考えと熱意をもたらし、先人の功績を土台として、よりよい地区と堅固なクラブを築き、後継者のためにそれを残すことができるよう、私たちはここに集まっています。「私たちは自分が持っていると感じる能力によって自分自身の価値を判断するが、他人は、私たちの業績に基づいて私たちを判断する」という詩人ロングフェローの言葉を信じて、私たちはやってきたのです。

104年前、ロータリーは、明確な理念に基づき創設されました。それは、知性と道徳観念を備えた善良な人々が集まれば、一人でやるよりはるかに多くを達成できるという考えでした。ロータリーとは決して普遍的な概念ではなく、誰に入会を認めるかを厳選する組織であり、それが私たちのあるべき姿です。ロータリアンとは、賢明な判断力と優れた技量を備え、誠実さをもって立派な行いをする気骨ある人間でなければならないのです。

私が常に思うのは、ロータリーがボランティアによる団体であり、その会員すべてが指導的立場にある人々であることを忘れてはならない点です。そのような人々を前に話すとき、説き伏せたり、要求したりすべきではないと思っています。すべてのロータリー・クラブは自立した存在であるべきであって、国際ロータリーのシニアリーダーの役割は統制することではなく、意欲を喚起し、導くことです。私たちは、世界中のロータリアンとロータリー・クラブに仕えるために、ここにやって来たのです。信頼を寄せてくださったロータリアンの皆さんに、私たちもまた信頼を託さなくてはなりません。

地区ガバナーとして、皆さんは今、人生の中でも最も実り多くやりがいのある年を迎えようとしています。地区は皆さんに何を期待しているのでしょうか。まず第一に求められ、また発揮しなければならないのが、リーダーシップです。それぞれの地区でロータリーのリーダーとなる皆さんには、当然のことながら大きな責務が課せられます。

ロータリーの要はクラブですから、皆さんは地区内のクラブ会長に対して責任があります。私たちが成すこと、達成することのすべては、クラブから始まります。優れたクラブ会長のいるところには、必ず優れたクラブがあります。地区における皆さんの責務はクラブ会長とともに始まるのです。

また、皆さんがボランティアとして地区ガバナーという職務に就くことを選んだように、地区の全クラブのロータリアン一人ひとりもロータリアンとなることを自ら選んだボランティアであることを忘れてはなりません。ボランティアと接するとき、命令することはできません。

だとすれば、皆さんの権限は一体どこにあるのでしょうか。それは意欲を駆り立て、導く、皆さん自身の力にあります。皆さんの考え方や機転、人の話に耳を傾ける力、意志の疎通を図る力にあるのです。行動をもってこそ、周囲からの敬意が寄せられるのです。

ドワイト・アイゼンハワー元米国大統領は、かつてこのように言いました。「指導者としての最高の資質とは、紛れもなく高潔さである。この資質なしに、本当の成功はありえない」ロータリーでは、皆、この言葉が真実であると知っています。ロータリアンとして、私たちはその価値観を高らかに宣言し、それに忠実に生きなければなりません。

皆さん一人ひとりが、まもなく地区ガバナーになられます。しかし、ガバナーである前に、皆さんはロータリアンなのです。ロータリーでの役職は毎年変わりますが、ロータリアンは変わらずロータリアンです。

ロータリアンである私たちは、皆、この素晴らしい組織に対して責任があります。ニュートンの言葉をご紹介します。「私が(ほかの人より)遠くを見ることができたとするなら、それは私が巨人たちの肩の上に立っているからにほかならない」幾世代ものロータリアンの肩の上に立っている私たちには、ロータリーの未来を決定する責務があります。

この理由をもって、私は2009-10年度のテーマを「ロータリーの未来はあなたの手の中に」としました。

ロータリーの未来はエバンストンにあるRI本部で形づくられるのではなく、個々のロータリー・クラブによって形成されるのです。強いロータリーを守り抜くために行うことが、ロータリアンとして、私たち一人ひとりのためになります。みんなのためにロータリーの針路を決めるのは、私たち自身の日頃の行動であり決定です。

「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あります。

会員増強分野においては、来るロータリー年度、私は新しいプログラムを設けたり、現実的ではない目標を新たに設けたりすることはいたしません。代わりに、年度末には年度の初めに比べ、会費を納めている正会員が増えているものと、責任感あるロータリアンの皆さんに信頼を託すのみです。また、会員の維持が勧誘と同様に重要であることを踏まえ、皆さんが新会員の世話を十分に行ってくださるものと信じております。

ロータリーでは、すべてがクラブに始まり、クラブで終わります。クラブは協力し合うことを知っています。所属地区との協力はもちろん、財団からの支援の下、ほかのクラブや地区とも力を合わせています。しかし、究極的には、私たちが達成することはすべてクラブの力のなせる業であると言えるでしょう。ですから、クラブは、どこでどのように奉仕するのがベストかを定める自治権を持たなくてはなりません。私たちの仕事は、ある年度に決められた分野の奉仕のみを行うべきだとクラブに押し付けることではないのです。

しかし、私たちはまた、発展し続けるために、奉仕における継続性を目指します。強調事項を掲げ、ロータリーの奉仕を最も必要とし、その奉仕から最も多くを得られるさまざまな分野にエネルギーを向けるようクラブを奨励するのはこのためです。水、保健と飢餓救済、識字率向上は、今後も強調事項として掲げられていくことでしょう。新しいロータリー年度、私は皆さんに経験から学び成功を積み重ねていくようお願いいたします。子供たちだけでなく大人も含む家族の健康と福利のために、どうか奉仕を続けていってください。

水が第一の強調事項とされているのは、人間が第一に必要とするものだからです。石油がなくてもなんとか生き延びられるかもしれませんが、水なしに生きることはできません。私たちは水のないところにきれいな水をもたらし、また現在水が使われているところでもその安全性を確かめる必要があります。私はこの分野の重要性を強く感じ、過去20年間にわたって、力を注いでまいりました。この経験から言えることは、水プロジェクトには、衛生に取り組むプロジェクトが不可欠だということです。十分に衛生的な環境がなければ、せっかくの努力が水泡に帰してしまう恐れがあるからです。

保健と飢餓救済は、多くのロータリー奉仕を含む分野です。この分野にかかわるとき、私たちは平和という大きな目標に向かっていくことを忘れてはなりません。一日中何も食べずに空腹のまま床に就く人々が大量に居る限り、世界に平和がもたらされることはありません。

識字率向上も私たちの強調するところです。「将来、指導的立場に立つ者に教育がなされていない国が成功することはありえない」というネルソン・マンデラ前大統領の言葉どおりです。

ロータリーが21世紀にふさわしくあるには、水、保健と飢餓救済、識字率向上の問題に取り組み、末永く継続していかなければなりません。これを実現するため、クラブと地区の考えを聞いた末に理事会が採択したのが、国際ロータリー長期計画です。

この計画は、「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔さ」「リーダーシップ」というロータリーの中核となる価値観を強化し、これを宣言するものです。「奉仕」は、私たちの第一標語が「超我の奉仕」であることと私たちの存在理由であることから選ばれました。「親睦」は、ロータリーが創設された理由そのものであると同時に、今日も1905年当初と変わらず重要な意義を持ち続けています。常にクラブ例会やロータリーの各行事を待ち望むロータリアンがいてはじめて、ロータリーには明日があると云えるのです。「多様性」は、私たちの力です。「高潔さ」は、事業と私生活において高い道徳的水準を保つことがロータリーの真髄であることから重要な価値観です。ロータリアンは、事業においても日々の営みの中でも尊厳と誠意を実践しなければなりません。これは、世界中のすべてのロータリアン一人ひとりが実践しなければならないことです。生涯かけて築いた信頼が一瞬にして失われてしまうことがあるように、全ロータリアンの評価も一握りのロータリアンによって汚されてしまう危険性があるからです。「リーダーシップ」は、「偉大さの代償とは責任である」というウィンストン・チャーチル卿の言葉どおり、ロータリーの責任は皆さんのものであるという理由に基づき、選ばれました。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あるからです。

ロータリーが繁栄するか低迷するか、その奉仕が影響を及ぼすのは多数か少数か、その名が敬意とともに広まっていくか過去の遺物として忘れ去られるかは、すべて皆さん次第です。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あるのです。

私がよく引用するスコットランドのことわざに「自分の庭の外に目を向けよ」というものがあります。自分の家庭や地域社会を超えて物事を考えなければならないという意味です。自分たちのニーズは世界中の国々に存在する数多くの地域社会のニーズの一つなのだと、私たちは悟るべきです。

それぞれの地域社会には、なすべき仕事待ち受けています。ロータリアンとして、座視しているわけにはいきません。私たちは、責任を引き受けます。必ずできる、そしてやらねばならないのです。

朋友の皆さん、先人が私たちのために敷いてくれたレールに沿って、この素晴らしいロータリーをより強き組織へと導き、平和に満ちて健全な、よりよき世界を築いていく上で、皆さんからご支援いただけるものと期待しております。私一人ではできません。皆さんの助けが必要です。この組織をこよなく愛する皆さんが、期待を裏切らないと私は信じます。ロータリーの未来は、皆さん次第です。

「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あります。

会員増強

李 東建
RI会長

本日は、2009-10ロータリー年度のジョン・ケニー会長エレクトの会員目標についてお話する機会を与您いただき、誠に光榮に存じます。

ロータリーにとって新会員がいかに大切であるか、ここにいる皆さんなら既にご存知のことと思います。新会員は、私たちの未来であり、ロータリー家族の次世代を担う人々です。ロータリーの家族がこれからも繁榮していくためには、適格な会員男女をクラブに迎え入れる努力を絶えず注いでいかなければなりません。また、新しく入会した会員に特に気を配り、彼らがクラブに馴染み、長きにわたって楽しく、充実した時間をクラブで過ごせるよう配慮することを忘れてはなりません。

世界の人口が急増していることは周知の事実であり、世界における奉仕への需要も高まっています。しかし、ロータリーの会員数は、こうした需要のペースに追いついていません。事実、過去5年間の純会員数には際立った増加が見られないにもかかわらず、世界人口は、わずか1年間で8千万人以上増えているのです。

まさにこうした理由から、ケニー会長エレクトは、次の会員目標を推進するよう、皆さんに呼びかけておられます。

- クラブにつき少なくとも1人の会員純増
- 80パーセントの会員維持率
- 地区につき少なくとも1つの新クラブ

こうした目標の達成は、ロータリーの今後の奉仕にとって極めて重要です。クラブに大勢の新会員を迎え入れ、地区に多くの新クラブを創設していかなければ、現在の奉仕レベルさえも維持できなくなってしまいます。さらに、現在いる会員、特に、最も新しく、若い会員たちにクラブに留まってもらえるよう努めてゆかねばなりません。

現在の世界人口の60パーセントは35歳未満です。しかし、ロータリアンの平均年齢はそれよりずっと高いのです。年齢を重ねるごとに知恵と知識が身につくのは確かですが、若い会員がいなければ、その知恵と知識を後世に伝えていくことはできません。

若かりし頃、私はアイデアとエネルギーに満ち溢れ、世界を変えられるような気構えでおりました。もちろん自分一人ではできるとは思っておりませんでしたが、幸い、ロータリアンであった父を模範とすることができました。ロータリーがどのような組織で、何をするのかを知っていましたし、自分とほかの人の力を合わせれば、一人では絶対不可能なほどの大きな違いをもたらすことができると心得ておりました。

ロータリーに入会したのも、このためです。以来、私の人生は大きく変わり、あらゆることがもっと豊かで、素晴らしいものとなりました。さらに多くのことをこの目で見、多くを成し遂げることができました。ボランティアの世界的ネットワークの一員として、人々と協力して世界を変えることができるのも、ロータリーのおかげです。

しかし、若い社会人の大半は、私が享受した恩恵を授けられていません。こうした人々は、日々の生活の中でロータリーを目にするということもありませんし、ロータリーが提供する機会を知らずにいます。才能と可能性を秘めているのに、それを発揮する機会がないのです。能力が無駄にされているか、せいぜい、どこかほかのところで使われてしまっています。ロータリーの奉仕の喜びも、素晴らしさも、まったく知らないのです。これは嘆

かわしい状況と言わざるを得ません。若い人々はロータリーのことをもっと知る必要があるのですから、ロータリーにいる私たちがクラブに若い人々を迎え入れてあげることが大切です。

若い人々は、次世代のロータリーのリーダーとなる人々です。また、クラブに活気を与え、新風を巻き起こすエネルギーを持っています。私たちがなぜロータリーの会員となったのかを思い出させ、奉仕の新境地へと導いてくれるのが、若い会員たちです。

私たちの住む世界は、豊かで多様性に富んでおり、地球上には、さまざまに異なる無数の文化や地域社会が存在しています。それぞれの中に、新しいロータリアンとなる可能性を秘めた人々がいます。自分とは異なる人々、クラブのほかの会員とは異なる人々にも入会のチャンスを与えてこそ、人脈と才能の幅が広がり、充実したクラブとなれるのです。

クラブに海外を経験した会員がいれば、その会員はその国のニーズを知っているのです。新たな国際プロジェクトを立ち上げることができるでしょう。また、ほかの誰にもない才能を持つ会員がクラブに1人いれば、プロジェクトが円滑に運ぶということもあるでしょう。さらには、異なる経歴や職業を持つ会員がもう一人増えたなら、クラブはさらに多くのことを達成できるはずで、多様性は強さをもたらす、可能性を広げます。ロータリーがあらゆる面で繁栄していくためにも、多様性を奨励してゆかねばなりません。

確固とした会員基盤を目指して地区内のクラブが目標を達成できるよう、ケニー会長エレクトが皆さんの協力を求めているのは、まさにこのためです。資格ある女性会員の割合を増やし、専門職に従事する50歳未満の会員を増やし、国際ロータリーかロータリー財団プログラムの学友を少なくとも1人入会させ、全クラブで会員の多様性を豊かにすること、こうしたことを、ケニー会長エレクトは皆さんに求められていくでしょう。

ロータリーが世界に提供できることは無数にあります。世界の人口が増え、変化の時代を迎えている今、ロータリーも成長し、変容を遂げる必要があるのです。

来る年度に新会員を迎え入れ、現会員を維持していくために、ケニー会長エレクトは皆さん一人ひとりを頼りにしています。その土台づくりを今から行っていただければ、私も皆さんにお願いいたします。

地区内のクラブに目を向け、どのクラブが成長し、どのクラブが衰退の道をたどっているかを見極めてください。また、会員が減っているクラブがあれば、その理由を突き止めてください。会員基盤を成長させるには、会員を維持することが重要です。新会員がクラブに長く留まらなければ、ロータリーの素晴らしさを味わうこともできません。

現地区ガバナーは皆さんの大切な支援者となる人々ですから、現ガバナーと話す機会を持つようにしてください。また、地区内クラブの現会長と次期会長に連絡し、各クラブにおける会員増強活動の状況を確認してください。どんな問題や課題があるかを尋ねることで、来年度に皆さんが何に重点的に取り組めばよいかが見えてくるでしょう。

そして何よりも、皆さんご自身が新会員を推薦することが大切です。そうしてこそ、新会員を入会させるようクラブに指導する際の説得力が増すというものです。ロータリーでは、模範を示せる人こそが真のリーダーであると、私たちは知っています。自分が新会員を推薦してはじめて、それと同じことをほかの人々にもお願いすることができるのです。

皆さんのお力添えがあれば、必ずや、ロータリーの会員を増やすことができます。そして、今日と未来に「夢をかたちに」することができます。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あるのです。

水、保健と飢餓追放

ロン・デンハム

ロータリアン行動グループ委員会副委員長

本日は、ロータリーの奉仕を実践する素晴らしい機会についてご紹介させていただきたいと存じます。豊かな社会に住んでいても、それとは逆に、基本的な生活必需品さえ国民の手に入らない国に住んでいても、ロータリー世界のいたるところで実践できることがあります。それは、安全な水と衛生設備を人々にもたらすことです。

「安全な水は人間にとって最も根本的なニーズであり、基本的人権です」と、コフィ・アナン前国連事務総長は述べられました。にもかかわらず、現在、12億人が安全な水を利用することができず、26億人もが基本的な衛生設備のない環境で暮らしています。「安全な水を利用できない」というのは、安全な水を、家から1キロ以内の場所で得ることができない状態を指します。

こうした環境の影響は大変深刻なものです。女性や少女たちは、家族のために、毎日9キロもの道のりを歩いて水を運ばなければなりません。時には、1日に何度も水汲みに行かなければならないこともあります。そして、運ばれてきた水は汚染されていることが多く、この水を口にした人々が病に感染していきます。子供たちは毎日、何時間も水汲みのために働いて疲れ果て、学校に通う気力を失い、読み書きの勉強や、基本的な教育の機会を逃してしまいます。また、成人女性の多くも、1日の大半を水汲みに費やさなければなりません。この時間を、子供の教育や作物の栽培、家畜の世話に充てたり、縫製業などの小さな事業に費やすことができれば、家庭と地域社会にもっと経済的な恩恵をもたらすことができるはずなのです。

世界を見渡すと、あちらこちらで人道的な悲劇が起こっています。安全な水がないために、毎日、8千人が亡くなっています。下痢性疾患、腸内寄生虫、コレラ、赤痢のために命を落とす5歳未満の子供たちは、一時間に2百人にもものぼります。さらに、6百万人がトラコーマによって失明し、弱者や障害者への支援が行き届かない社会では、これが間接的な要因となって何十万人もが亡くなっています。こうした悲劇の多くは未然に防ぐことができます。その要因は不衛生な水と衛生設備の欠如なのです。

モンスーンの被害や長引く干ばつなど、水に関連するそのほかの原因で亡くなる人も大勢います。家畜が死んで、農作物が不作になると、人々は飢餓に苦しみ、子供たちが目の前で死んでいく状況に耐え忍ばなければなりません。

ロータリアンは、こうした問題に取り組もうとしています。2000年にミレニアム開発目標を採択した国連は、「目標7」として、「2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を持続可能な形で利用できない人々の割合を半減させる」ことを目指しています。

この動きに呼応するかのように、ロータリアンは、発展途上国で2千を超える水と衛生プロジェクトを実施しています。これらのプロジェクトは、ロータリー財団をはじめ、経済的に豊かな国々の何千ものクラブから支援を受け、さらに最近では、水と衛生のロータリアン行動グループの協力も得て、幅広いニーズに応えるものです。

マラウイでは、ロータリアンが、HIV・エイズに感染した子供たちのための孤児院に安全な水を提供しようと、井戸を掘っています。免疫力が弱まった子供たちにとって、不衛生な水ほど危険なものはありません。

ケニアの大地溝帯では、ロータリアンがロータリー地域社会共同隊を送り、一千世帯以上に雨水の貯水タンクを設置するのを助けました。この貯水タンクのおかげで、女性や子供たちが10キロも歩いて汚染された水を川から運んでくる必要がなくなりました。

世界の多くの地域では、たとえ水はあってもその水が汚染されている、という現状を抱えています。ガイアナでは、川岸にある村落で雨水を貯水するのをロータリアンが助けようとしています。低地にあるこの村落では、人々は川の水を頼りに生活しています。しかし洪水が起きると、川の水面が何メートルも上昇し、トイレからは糞便が、森からは死んで腐敗した動物が流れ出てきます。このような状況から何が起るかはご想像いただけるでしょう。下痢や赤痢が蔓延し、人々が死んでいきます。特に幼い子供たちがその犠牲となります。

ドミニカ共和国では、ロータリアンが、緩速ろ過装置の製造工場を建設しました。99.9パーセントのバクテリアを除去するこの単純なる過装置によって、多くの子供を含む何千もの人々が、病を癒され、命を救われました。

インドのラージコットでは、極貧で病に苦しむ住人15万人がスラム街に居住しています。市議会がこれらの住民に安全な水を供給しようとしないうちに状況を覚えた一人の地元のロータリアンが立ち上がり、自力でダム建設チームを結成しました。その5年後、安全な水を利用できるようになったスラム街の住民は、これまで絶え間なく続いていた病、栄養失調、死の恐怖に直面する必要がなくなりました。

雨水の貯水や井戸の掘削では解決できない複雑な問題もあります。バングラデシュとネパールでは、水中のヒ素によって何千もの人々が亡くなっています。地元のロータリアンは、マサチューセッツ工科大学のエンジニアと協力し、サンドフィルターの上層部に錆びた鉄の釘を置くだけでヒ素が除去されることを発見しました。ほかの多くの場合と同様に、ほとんど費用のかからないシンプルな解決策で、人々の命を救うことができるのです。

ガーナでは、地元のロータリアンが北米のロータリアンから協力を得て、ギニア虫を国内で撲滅するキャンペーンを立ち上げました。

西半球で最も貧しい国、ハイチでは、ロータリアンが、1万5千人から2万人の学生に清潔な飲料水を供給するために、浄水器を供給しています。

人々の命を清潔な飲料水だけで救えるというわけではありませんが、基本的ニーズが満たされれば、地域社会の人々は、かんがい設備を整えて、農業や家畜業を改善できるようになります。そしてこれが飢餓の緩和につながるのです。

ムンバイ・ロータリー・クラブは、ムンバイから東に約100キロ離れた地域でこのことを証明しました。以前、この地域の人々は、モンスーンによる雨水を頼りに米を栽培していました。米は、モンスーンによる豪雨で育つ比較的安価な作物です。そこへロータリアンが、砂防ダムと貯水池を建設すると、地域の人々は、安価な米を栽培する代わりに、年に3種類の換金作物を栽培できるようになりました。その結果、飢餓が緩和され、地域社会の人々の健康と生活が改善されました。

2千件を超える水と衛生プロジェクトを実施している80カ国以上のロータリアンについて、私はこの午前中ずっと語り続けることができるでしょう。これらのプロジェクトの規模は、数千ドルのものから数十万ドルのものまでとさまざまですが、すべてに共通しているのは、病を軽減し健康を改善する、という目的を掲げていることです。

さて、安全な水に必然的に伴うもの、すなわち安全な衛生設備についてお話ししましょう。清潔でプライバシーが守られたトイレのない生活を想像してみてください。空き地や道端で用を足さなければならなかったとしたら、どんなに恥ずかしいことでしょうか。女性であれば、夜間に性犯罪の被害にあう危険性もあります。しかしこれは、アフリカやインドで極貧生活を送る26億人の人々にとっては、日常的なことなのです。

例えばエチオピアでは、農村地域の95パーセントの人々が、安全な衛生設備を持っておらず、野原と下水溝が彼らのトイレとなっています。まったくひどい話だと思われるかもしれませんが、これが現実なのです。

百万人の人々が衛生設備のない生活を送るナイロビのスラム街では、ロータリアンが地元の人々を支援し、病気が蔓延するこの地域で原始的で不衛生なトイレを取り壊し、代わりに安全な水を引いて手洗い場付きのトイレを設置しました。

南アフリカのナタールでは、地元のロータリアンが、中学校に男子用と女子用のトイレを建設するのを助けました。女子生徒は、男女別のトイレを使えるようになったおかげで、毎日、安心して学校に通えるようになりました。衛生設備を整えることで、生徒たちの健康状態が改善されるだけでなく、教育、言い換えれば、識字率の向上にもつながるのです。

これらの活動のほとんどは、草の根レベルで、地域社会のために活動するロータリアンのビジョンと意志によって実現されています。ロータリアンは、すべての関係者を団結させ、病気、死、障害の原因にかかわるニーズを探ります。そして、地域社会が対応できる範囲内で、その地域の文化や慣習に見合った最善の解決策を選び出します。こうした解決策は、たやすく運営、管理でき、経済的にも地域社会が長期にわたって実施できるもの、つまり、真に持続可能なものでなければなりません。

ヒ素と錆びた釘の例からもわかるように、多くの場合、必要な技術は簡単なものです。昔から使われているもう一つの簡単な手法として、太陽熱による殺菌があります。まず、プラスチックボトルに汚染水を入れ、ボトルを振った後に、熱帯の太陽光が当たるタン屋根の上にボトルを置いておきます。8時間後、紫外線を浴び、水温が摂氏51度に達した水は、飲料水に変わります。

雨水の貯水は、どこでも持続していくことが可能な手段です。各家庭の屋根に降った雨水を集めるのを助けることができます。集めた雨水をゆっくりと一定の方向に誘導して、砂防ダムと貯水池をつくり、井戸に再び水をもたらします。こうして、地域社会の人々が雨水を集めて貯水できるようにすればよいのです。

最善策が、井戸やパイプライン、あるいはろ過装置であろうと、常にそれは地元のニーズを反映したものでなくてはなりません。インドのある地区ガバナーは次のように記しています。「自分があげたいものだけ人々にあげるのでは、何の意味もありません。人々が求めるものを提供しなければならないのです」

水に関して言えば、その衛生対策はシンプルで低費用なものがほとんどです。手洗いは、水関連の疾病を減らすために最も効果的な手段です。トイレを使った後に清潔な水と石鹸で手を洗うだけで、毎年、百万人もの人々の命が救われ、子供の死亡率を45パーセント減らすことができます。

ロータリアンには、多くのリソースがあります。水や衛生プロジェクトの実施に、この豊富なリソースを思うままに活用することができます。そしてロータリアンには、たくさんの協力者がいるのです。

既にプロジェクトに取り組んでおり、さらに大きな地域社会プロジェクトを実施しようとしているほかのロータリー・クラブと協力することもできます。その場合には、マッチング・グラントや3-H補助金などのロータリー財団の支援を活用するとよいでしょう。

水対策支援グループのメンバーである地区コーディネーターに連絡すれば、持続可能な水プロジェクトの実施方法や、リソースの利用方法に関して情報を得ることができます。国内の状況に精通し、専門知識を備えた地元の非政府組織に連絡を取ってもよいでしょう。これらの団体は、いつでもロータリアンへの支援を快く引き受けてくれることと思います。

さらに、近年ますます活躍しているのは、62カ国を超える国々に、千人近くのロータリアンをメンバーとして有する水と衛生のロータリアン行動グループです。このグループは、皆さんから連絡が来るのを待っています。持続可能なプロジェクトのベストプラクティスをまとめ、技術に関する調査を行っているこのグループは、単に人々が集まったというだけでなく、ガバナーである皆さんが、地区で水と衛生プロジェクトを推進していくことができるよう、さまざまな資料を用意しています。水と衛生のロータリアン行動グループのウェブサイト、www.wasrag.orgこそ、リソースの宝庫です。ぜひご利用ください。

「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あります。病気がない健全な地域社会を築くために、水または衛生をもたらす持続可能なプロジェクトに取り組むよう地区内の全クラブに呼びかけることが、ロータリーの使命を果たす最善の方法なのです。

識字率向上

デイビッドW.ファウラー
RIBI副会長

もしも読み書きができなかったとしたら、人生はどのようなものになるか想像してみてください。識字能力がなかったとしたら、どのような生活を送らなければならないでしょうか。旅行に必要な書類に記入できなければ、ここまでたどり着くことさえできません。地区ガバナーのジャケットを事前注文することもできません。

地球上には、読み書きのできない人々が8億人もいます。そのうちの3分の2は女性で、4分の3の人々は発展途上国に住んでいます。教育の機会なしに、これらの人々が貧困から抜け出すことはできません。

グレン・キンロス元RI会長は、かつて次のように語りました。「貧困は、世界にはびこる病、飢餓、汚染の根本的な原因である」貧困はまた、犯罪、政情不安、テロ行為までも引き起こします。世界の人々が読み書きの能力を習得し、貧困から抜け出して、世界平和の実現に向けて共に歩んでいくためには、ロータリアンの支援が必要です。

国際ロータリーには、支援グループという素晴らしい財産があります。その一つ、識字率向上支援グループも例外ではありません。私は、2006年から2008年の2年間に、ゼネラル・コーディネーターの役職というまたとない機会に恵まれ、クラブと地区が数多くの識字率向上プロジェクトを実施するのを見てきました。これらのプロジェクトは、大きく二種類に分けられ、一つは、読み書きの指導、もう一つは、読む力の育成を目指すものです。

読み書きの指導に焦点を当てたプロジェクトでは、オーストラリアのロータリアンにより開発されたCLEと呼ばれる集中言語能力助長プログラムが、大きな役割を果たしています。ロータリー財団の3-H補助金とマッチング・グラントを通じて、この教授法は、タイ、バングラデシュ、フィリピン、ネパール、南アフリカ、ブラジル、その他たくさんの国々に広く普及し、何千人もの人々が読む能力を身につけました。

ソルトレークシティで開かれた国際大会に出席された方は、トルコの若い女性のことを覚えているに違いありません。両腕なくして生まれた娘のことを案じた両親の保護のもと、彼女は18歳になるまで自宅で閉ざされた生活を送っていました。この女性の名前は、エミンヌ・ユザイさんと言います。ユザイさんは、ロータリアンが無料で集中言語能力助長プログラムを提供していることを、兄弟から聞きました。ユザイさんはこのプログラムに参加し、足の指でなんとかページをめくりながら、読み書きを覚えました。彼女の識字能力は飛躍的に上達し、新しいスキルを身につけたユザイさんの人生は一変しました。現在は、集中言語能力助長プログラムを使って、トルコの女性に読み書きを教えるほどになりました。さらに素晴らしいことに、ユザイさんは今、義肢を使って生活しています。これもロータリーの力で実現したものです。エミンヌ・ユザイさんは、まさしく識字のチャンピオンです。

ロータリアンはまた、コンピューターを使ったCALCと呼ばれる識字プログラムを活用して、人々に読み方を教えています。カナダで開発されたこのプログラムは、高速インターネットへの接続ができるコンピューターさえあれば、世界中のどこでも利用できます。

読書への関心をはぐむプロジェクトでは、多くのクラブが地元の学校と協力し、生徒が音読するのを聞いたり、学校や図書館に本を寄贈したりしています。米国とカナダでは、児童への辞書の寄贈が頻繁に行われています。昨年は、フロリダ州だけでも、9万冊の辞書が購入されました。辞書の寄贈というアイデアは、英国、ナイジェリア、ニュージーランドをはじめ、そのほかのロータリー世界にも広がり、昨年、英国では5万5千冊の辞書が、ナイジェリアでは2万2千冊の辞書が寄贈されました。ほとんどの辞書の表紙には、ロータリー・ク

ラブから寄贈されたものであることを記した蔵書票が付いているので、その辞書は、ロータリーからの生涯の贈り物として、子供とその両親の記憶にいつまでも残ることでしょう。

2001年、テキサス州のロータリアンが、南アフリカのある地区に、本と学用品を積んだコンテナを送るプロジェクトを開始しました。コンテナは今日も送り続けられ、米国では、テキサス州だけでなく、ほかの16州もこのプロジェクトに支援を送るようになりました。毎年3回送られていたコンテナは、毎月3回送られるようになり、現在、アフリカ南部全域に本が寄贈されています。このプロジェクトに携わるロータリアンは、まさしく識字のチャンピオンです。

ロータリアンは、識字率を向上させるための支援が、海外だけでなく自国でも必要とされていること、また識字能力の欠如は、子供だけでなく大人の問題でもあることを理解しています。英国では、読み書きのできない大人が500万人います。これらの人々は、機械の安全に関する注意書や、薬瓶のラベルを読むことができません。

識字能力を持たない成人の多くは、特別な支援を必要としている人々です。中でも特に大きな課題となっているのが、囚人の識字能力の欠如です。そもそも、識字能力を持たないこと自体が、囚人、あるいは奴隷の身と同じであるといえるかもしれません。事実、150年前には、奴隷に読み書きを教えることが法律で禁じられていました。その理由は、識字能力の取得が、自由への第一歩であったからです。

ロータリアンは、こうした識字の問題に取り組み、特に若い犯罪者に手を差し伸べています。彼らが、読み書きの能力を身につけ、仕事の応募用紙に記入することができるようになれば、その多くは刑務所の前に戻ってくることはなくなるでしょう。これまで学習の妨げとなっていた障害をいったん克服した後の成人の識字能力の伸びには目覚ましいものがあります。成人が識字能力を獲得するのに必要な時間は、数年ではなくほんの数カ月なのです。また、女性に読み書きを教えれば、その女性は子供や孫にも読み書きを教えるようになる、とよく言われています。

このように、ロータリアンには、識字率向上プロジェクトに参加する機会が山ほどあります。子供や成人を対象としたもの、自国あるいは外国で実施するものなど、地区とクラブが取り組める識字率向上プロジェクトはいたるところにあるのです。

RI識字率向上支援グループの目的は、プロジェクトを発案したり、開始するのを支援することです。RIのウェブサイトを開いて、キーワードに「識字率向上」と入力して検索してみてください。さまざまなパンフレット、プロジェクトの例、概要資料や連絡先など豊富な情報を見つけられるでしょう。識字率向上支援グループは、クラブ、地区、ゾーンで識字率向上に関するセミナーを開催したり、識字率向上に貢献したロータリアン、教師、学生を表彰することを奨励しています。

今日、皆さんに残したいメッセージが一つだけあるとしたなら、それは、識字率向上プロジェクトは、国際ロータリーのすべてのクラブが参加できるプロジェクトだ、ということです。

これは、私たちに与えられたチャンスです。読み書きを習い、教育を受ける機会に恵まれたおかげで、貧困生活を経験せずにすんだ私たちは皆、識字のチャンピオンとなれるのです。皆さん、今すぐ行動を起こし、ロータリーを識字の世界チャンピオンにしましょう。

今日における私たちのロータリー財団

ジョナサン・マジアベ
ロータリー財団管理委員長

私は本日ここで、ロータリー財団について皆さんにお話する、という依頼を受けましたが、これは想像以上に、ことのほか難しいものです。ロータリー財団は今、その歴史上でおそらく最も重要な過渡期にあると言えるでしょう。私たちは現在、未来の夢計画を通じて、財団の思考や運営方法を変え、未来の財団を築こうとしています。今日のロータリー財団は、昨日の財団とは違いますし、また明日は今日と違った財団になっているでしょう。まさに変革期にある私たちは、絶え間ない変化をくぐり抜けて、素晴らしい未来を約束する組織に変貌する、飛躍のときにあるのです。

幸いにも財団は、このような劇的な変化を受けて立つに十分恵まれた立場にあります。2007-08年度、年次プログラム基金に寄せられた寄付金は米貨1億1,500万ドルに届くほどで、前年度を1,100万ドル上回りました。アーチ C. クランフ・ソサエティでは25万ドル以上の寄付を寄せくださった新会員25名を迎え、1万ドルを寄付した大口寄付者の数は147名増えました。2008-09年度はさらに実り多い1年となるよう期待が高まります。そして来年度、皆さんには、こうした成功の積み重ねを土台として、一層成果溢れるロータリーとロータリー財団を指導していただくことになります。

近年、寄付は増え続ける一方ですが、補助金、特にマッチング・グラントへの申請も爆発的に増えています。今年はなんと、3万件目にあたるマッチング・グラントの授与を行うことになります。これを大局的に見ますと、最初の1万件のマッチング・グラントは、プログラムが始まった1965年から2000年までの35年間に授与されました。ところが、次の1万件の補助金はわずか4年間で利用され、今では3万件に迫る勢いです。

マッチング・グラント・プログラムの人気は、ロータリー財団とロータリアンを実に良く物語っています。国際奉仕への関心が高まり、ありとあらゆる方法で恵まれない人々を救おうと奔走するロータリアンにとって、これは最適なプログラムです。また、重大な問題に具体的なかたちで取り組んでいこうとする財団の意向も十分に反映されています。水と衛生、識字率向上と教育、保健と飢餓などの分野において、マッチング・グラントのプロジェクトは世界中で大きな変化をもたらしています。

そもそも私たちが未来の夢計画に着手したのは、マッチング・グラントへの関心が急激に高まったことが一つの理由でした。事務的な面から申し上げれば、急増するプログラムの需要に追いつくことが非常に困難で、財政的に逆効果という状況すら見られるようになりました。管理運営費が補助金自体より高つくことさえあったのです。しかし、前向きにとらえるなら、これはロータリアンが人道的補助金に大変熱心に取り組んでおり、こうしたプロジェクトを実施するのに長けてきたという証拠です。

後ほど、ロン・バートン管理委員から詳しい報告がありますが、未来の夢計画には、補助金の授与手続を簡素化し、管理運営費を抑えるというねらいがあります。また補助金に柔軟性を持たせることで、ロータリアンが地元や海外でより革新的かつやりがいのある奉仕を実行できるようになるはずです。

今後も変わらず継続されるプログラムが2つあります。それはポリオ・プラスと国際問題研究のためのロータリー・センターです。

ポリオ・プラスは組織全体のプロジェクトで、国際ロータリーとロータリー財団の最優先事項です。ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団からの後押しを受け、いよいよポリオのない世界というゴールのテープを切ろうとしています。疾病を撲滅するのはそうたやすいことではありません。私たちはこれまでに、戦争、自然災害、政治問題、資金不足など、数々の課題に直面してきました。それでも、ロータリアンは、常にその障害を乗り越える方法を見つけてきました。

世界保健機関のマーガレット・チャン事務局長は、ロータリアンについて「政府の高いレベルに直接働きかけることができるだけでなく、それぞれの地元の人々と草の根の活動を行うこともできる」と称賛しました。こうした能力こそが、ロータリアンに対する人々の尊敬と信頼につながっているとチャン事務局長は言います。私もこれに同感ですが、ロータリアンに関して私がもう1点付け加えたいのは、粘り強さです。

ロータリアンは、ポリオのない世界を夢見て、25年近く活動を続けてきました。社会動員と予防接種のために、莫大な資金を集め、無数の時間をボランティア活動に捧げてきました。一度としてあきらめることなく、弛みない努力を続けてきました。あともう一息なのです。これまでも増して辛抱強く、耐え忍ばなければならぬときがあるとすれば、今こそがそのときです。

ロータリーのチャレンジ達成に必要な資金を集めるため、皆さんは地区ガバナーとして、クラブの意欲を高めることができます。これまでポリオ撲滅の募金活動に参加する機会がなかった新しいクラブや新会員に声をかけてください。この機会を逃すわけにはいきません。私たちは世界中の子供たちとの約束を果たさなければなりません。

未来の夢計画の下でも変わらず運営されるもう一つのプログラムが平和と紛争解決のためのロータリー・センター・プログラムです。このプログラムの目的は、夢計画の重点分野の一つ、「平和と紛争予防／紛争解決」にうまく呼応しています。現在、国際問題研究のためのロータリー・センターからは400人以上の卒業生が出ており、それぞれが紛争の解決、人道的な支援、外交、政府関連の諸分野で活躍しています。そして毎年、80名余りのロータリー世界平和フェローが生まれ、世界各地の紛争地域でロータリーの理念を実践しています。

次第に発展する平和構築者のネットワークは、世界を変える可能性を秘めています。今は、わずかな衝突が大戦争へと発展してしまう世界ですが、外交や紛争解決がまずは優先される世界に変えられるはずです。ロータリー・センターを卒業したナニ・マハンタさんの言葉がこのことを良く表しています。「一晩で平和を実現しようというわけではありません。私たちは、意義ある目的のために社会の資源を生かそうと努め、意義ある目標を達成しようと試み、対話を持ち、制度を築き、人間の安全を確保することによって、互いの違いを受け入れつつ、紛争を解決していこうと取り組んでいるのです」

この試みには課題が一つありました。紛争解決について十分な教育や研修を受けた人材が欠けていたのです。ロータリー・センターはその足りない部分を補うために特別に設けられたプログラムです。ただし、この試みは今始まったばかりです。これからも平和のために活動する人材を輩出し、専門的な技術を切実に必要としている問題地域にプログラムの修了生を送り込んでいかなければなりません。ロータリー・センター大口寄付推進計画は、2015年までに9千5百万米ドルの基金を設立し、意義あるプログラムを継続して運営することを目指しています。そこで皆さんの地区にもぜひ力になっていただきたいのです。地区財団活動資金(DDF)から2万5千ドルを寄贈された地区は、平和推進地区となります。どうかご検討ください。

ここまで、ポリオ撲滅を目指すロータリーのチャレンジとロータリー・センターのための募金活動についてお話してきましたが、最後に、忘れてはならないのが、「毎年あなたも100ドルを」です。これは人道のおよび教育的プログラムを支援するだけでなく、ロータリー財団が末永く意義ある活動を続けていくために欠かせない恒久基金を支える募金活動でもあります。財団は、あまりに多くをロータリアンに求めすぎるとおっしゃる方もおられるかもしれませんが、しかし、その理由をともに考えてみてはいただけないでしょうか。

今、世界では、推定6億人から10億人が栄養失調となり、飢えに関連する原因で毎日2万人が命を落としています。

10億人が安全な飲料水を得ることができず、発展途上国の半数の人々は汚染された水が原因で病気にかかっています。

読み書きのできない成人の数は推定8億8千万人です。その3分の2が女性です。世界にはHIV感染者・エイズ患者が4,200万人いるほか、数百万人が結核、マラリアなどの感染症にかかっています。

世界各地で20件以上の深刻な武力衝突が進行しており、戦いに駆り出される少年兵の数は30万人にも上ります。こうした争いの結果、3,500万人以上が母国で流民となるか、他国で難民となっています。

貧困の中で基本的なニーズが満たされないまま生きる数多くの人々には、希望が必要です。自分たちの生活が改善され、子供たちの生活もきっと改善される、という希望です。その希望がなければ、貧しい生活環境と悪化する窮状から、世界は争いの渦に飲み込まれてしまうでしょう。ロータリー家族の皆さん、その希望を与えられるのがロータリー財団なのです。

私たちが今直面する現実、ロータリー財団を支援し、財団のプログラムに積極的に参加していくことで乗り越えられる挑戦です。財団は今、私たちの回りにある緊急のニーズにこれまで以上に対応していけるよう準備しています。それには各地区からの、絶大な支援と参加が不可欠です。

ロータリー指導者となるには、大変やりがいのある時期です。地区に帰られましたら、活気に溢れ力強いロータリー財団を作るための新たな変化を応援していただきたいと思います。新しい財団は、きれいな水、十分な食糧、適切な医療、万人への教育といった差し迫るニーズに取り組んでいきます。財団は理解を推進し、平和をもたらします。そして、あらゆる分野で功績を上げ、世界中で知られる存在となります。ロータリー財団は、未来のための財団となっていきます。

未来の夢計画

ロン・バートン

ロータリー財団副管理委員長

今皆さんが座っておられる席に私がおりましたのは数年前のことですが、今でも国際協議会での体験を鮮明に覚えています。興奮みなぎるあの時の経験は、決して忘れられません。世界中の仲間と新しい友情をはぐくんだだけでなく、その時はじめて、ロータリーの真の国際性を目の当たりにしたのです。同時に、とてつもなく大きな課題が目の前に突きつけられました。莫大な量の情報、本会議での素晴らしい講演の数々、熱心な研修リーダーの方々など、思い出は尽きません。ロータリーの経験に終わりはありません。

本日は、ロータリー財団に関する大切な情報を皆さんにお伝えすることができ、誠に嬉しく存じます。ここにおられる皆さんにも、「未来のための財団」の土台を築くためのビジョンを掲げるロータリー財団とともに歩んでいただけることを願っております。

過去2年間、私は未来の夢委員会の委員を務めてまいりました。委員会での仕事は、私のロータリー活動の中でも、最も甲斐があり、報いが多かった一方、最もストレスの多い激務でもありました。委員会会合は決まって長時間にわたり、激論が交わされるため、会合が終わって自宅に戻るところには、充実感とともに疲労感がどっと押し寄せてきます。これまで、委員会は広範囲にわたる検討を行ってまいりました。皆さんは未来の夢計画についていくらかご存知のことでしょう。知識の程度にかかわらず、ここ協議会に設置されている財団ブースを訪れ、未来の夢計画に関する詳細を学んでいただければと思います。また、ロータリーのウェブサイトでも、詳細な情報をご覧ください。

今後数年間、財団は前例のない機会を迎えようとしています。本日は、この画期的な機会について皆さんにお話いたします。現在、財団が生まれ変わるためにどのような変更を加えていくかが検討されていますが、ここにおられる皆さんはこうした変化に順応できる柔軟性を備えておられると信じております。また、検討中のアイデアに対しても、心を開いて受け止めていただければ幸いに存じます。

「なぜ変化が必要なのか」とお考えの方もおられるでしょう。

世界中のロータリアンから集中的に多くの意見や感想が寄せられたことを受けて、管理委員会は、財団の現行のプログラムと運営を見直す必要があること、そして、2017年に始まる財団の第2世紀における可能性を思い描く必要があることを認識しました。ロータリーの名声、得意とする分野、リーダーシップ、取り組みを最大限に生かすべく長期計画に基づくアプローチを求める声が、世界中のロータリアンから寄せられたのです。こうした声を聞き入れようと、管理委員会はロータリアンの意見を基に未来の夢を形づくりました。

私と同期のガバナーだったボブ・スコット元財団管理委員長は、「すべての人々にすべてを提供しようとすることで、財団にとってその使命の実現が困難となってしまった」とおっしゃいました。財団創設以来、ロータリー財団のプログラムに大きな変更が加えられたことはありません。奨学金は1947年、研究グループ交換とマッチング・グラント・プログラムは1965年に始まりましたが、なんと、いずれも開始以来ずっと同じ方法で運営され続けてきたのです。プログラムが最初に開始されて以来、世界は大きく変わったにもかかわらず、です。人道的ニーズと教育的ニーズが増え続ける中、財団には、ロータリアンがさらに効果的にこうしたニーズに応えていくための支援を提供する力があります。

財団が大きく成長したことも、新たな課題をもたらしました。自らの成功が、言わばあだになってしまったかたちです。世界には、子供たちをはじめ、貧しい人々や飢えた人々、そして限られたリソースや機会しかない恵まれない人々がいます。もっとも深刻なニーズを抱えるこういった人々に答えるには、財団が今日的な意味を持ち続けなければなりません。

財団がさらに大きく成長し、大勢の人に知られ、利用しやすくなるようにするためには、私たちは引き続き改善の努力を重ねていかなければなりません。助けを必要とする人々の生活がもっと豊かになり、すべての人々にとってより良い世界を築けるよう、大きな成果を与える活動に集中的に取り組んでいかなければなりません。

近年、ロータリー財団は、ポリオ撲滅運動におけるリーダーシップのおかげで、多くの人々から認知されるようになりました。世界保健機関、ユニセフ、米国疾病対策センターとの協同の取り組みによって、国際開発の分野におけるロータリーのイメージが大きく向上しました。

未来の夢計画は、財団とその活動がさらに認識され、全世界的な影響を与える成果を生み出す機会をもたらすものです。

120万人以上のロータリアンの情熱と参加意欲を取り入れ、「世界でよいことをしよう」という標語の下に現在財団が行っている奉仕プロジェクトや活動の長所と成果を生かし、ロータリアンから寄せられた主要な懸念事項に応えるべく、ロータリー財団は変容を遂げようと努力しています。

ここで、未来の夢計画を進めていく中で今後予想される反響、そして変化の段階についてお話ししたいと思います。変化が不安を呼び起こすものであることは、皆さんもご同感のことでしょう。この変化をプラスと捉えるにしろ、マイナスと捉えるにしろ、以前の状態を恋しく思う気持ちは避けがたいものです。事実さえも疑わしく感じられ、疑問が疑問を呼び、自分たちの信じる変化が本当に正しいかどうかを判断するための情報を探し回る人もいます。正直なところ、私もこの計画の全側面に100パーセント確信を抱いているわけではありません。しかし、本日、そしてこれまでも繰り返し申し上げてきたように、今ある計画は、試験段階が終わった時点の最終的なかたちとは違うものになるでしょう。確かなのは、私たちが変化を必要としているということであり、未来の夢計画が財団を正しい方向へと導くものであると私は認識しております。

未来の夢計画が発展していくにつれ、変化とその意味が明確に理解され、定着していくことを願っています。現在、私たちは極めて重要な時を迎えています。変化とともに前進し、変化がもたらす可能性を見つけ出さなくてはなりません。皆さんにも、ぜひこれを実践していただきたいと思います。

次なる試験段階では、長いトンネルを抜けて光が見え、やがて事態が收拾して新たな希望が感じられるでしょう。未来の夢計画では取捨選択の余地が与えられているため、結果については何の不安を抱くことなく、最終的には変化を理解し、自信を持つことができるでしょう。私たちは、財団を前進させる際に論理的に物事を考え、生産的に振舞います。変化がもたらす報いを見抜く眼識を持つ私たちは、必ず新しい財団を作り上げるでしょう。なんと素晴らしい成功のストーリーではありませんか。

「どんな利点があるのだろうか」という疑問をお持ちの方もおられると思います。「自分にとって良いことがあるのか」、と。こうした疑問にお答えするために、いくつか要点をお話しいたします。

ロータリー財団の使命は、平和、国際理解、保健、教育、飢餓救済といった分野の活動範囲を明確に表しています。未来の夢計画は、こうした重点分野の範囲内の活動を推進することで、ロータリー財団の使命を直接支えるものです。現在、ロータリアンは活動を通じてこの使命を支援してくださっているものと思います。私たちは、地元であろうと、地球の裏側であろうと、とどまる場所を知らない世界のニーズにロータリアンが効果的に応えるための柔軟性を備えるべく、「未来のための財団」という土台を敷こうとしています。この計画は、クラブと地区がその活動において影響力と持続性を高めるべく資金を最大限に生かすために、財団への寄付をできるだけ有効に活用することを目指しています。

リソースを最大限に生かし、大きな成果を得ることに主眼を置けば、ロータリアンと財団は、もっと多くの恵まれない人々に手を差し伸べ、恒久的な影響をもたらすことができます。既存の人道的活動と教育的活動はすべて、新しい補助金構成の下でも、違ったやり方ではありますが、可能です。このことを忘れずにおこなえばなりません。管理委員会とほかのシニアリーダーは、現在、検討中の変化の重要性を認識しています。こ

の変化は、(1) 草の根のロータリアン、クラブ、地区、(2) 指導者層、(3) 事務局の業務に影響します。本計画は、世界で「よいこと」をするという使命を達成するための新しい業務の方法を提示するものです。

試験段階については、午後の分科会で詳しく取り上げられる予定となっています。試験段階の狙いは、効果のあるものとそうでないものを明らかにすることです。試験段階は、未来の夢計画の方策と仮定を検証するための、極めて重要なステップです。本計画が良いものであることは確かですが、試験段階への参加を承諾した地区が実際に試し、評価しなければならない課題や未知の要素があることも、私たちは認識しています。

協議会の後、財団は、関心のある地区に対し、試験段階への参加を申請し、未来の夢計画の実施に協力するようお願いすることになります。重ねて申し上げますが、これは草の根の活動です。この段階を経ることによって、未来の夢計画がロータリー世界全体に導入されたときに、ロータリアンからの強い支持が得られることになるのです。

財団は、未来の夢計画が次のような効果をもたらすと信じています。

1. 財団のプログラムと管理運営が簡素化され、わかりやすくなると同時に、ロータリアンが世界でよいことをするためのより良い方法が提供される。
2. ロータリアンの奉仕への関心、および奉仕の成果と財団の使命を調和させようというロータリーの傾向に焦点が当てられる。
3. 地元のレベルで、財団の活動が自分たちのものであるという自覚が増す。
4. 全関係者および協力組織となる可能性のある団体のリソースを利用することによって、目標達成に必要な資金が提供される。
5. 認識、可視性、資金集めの能力が高まる。

私たちの使命は、ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすることです。未来の夢計画の趣旨は、まさにこれに尽きます。私たちは、ロータリー財団が前例のない変化、またとない機会、未曾有の成長を遂げる準備ができています。また、未来の夢計画が、ロータリーとその財団を想像を超える高みへと昇華させる促進剤になると信じています。財団をより良くしようという皆さんならびに世界中のロータリアンの努力のおかげで、これが可能となるのです。

未来の財団の土台を築いていくために、多様な文化や地域を代表するさまざまな地区のグループと協力していけることを、心から楽しみにしております。

ガバナーとしての皆さんのご活躍をお祈りしております。ご清聴ありがとうございました。

2009-10年度のロータリー財団目標

グレン E. エステス・シニア
ロータリー財団管理委員長エレクト

今日、サンディエゴで、新地区ガバナー・エレクトの皆さん、ならびにロータリー家族であるたくさんの皆さんにお会いすることができ、大変幸せに感じております。また、次年度に向けた私個人の目標でもあるロータリー財団目標について皆さんにお話できることを、誠に光栄に存じております。

元RI会長にとって、財団委員長を務めさせていただくということは、この上ない幸運です。歴代のRI会長は、毎年、世界各地で財団が実現してきた数多くのプロジェクトを間近で見してきました。従って、元RI会長にしか語るることのできない財団の姿というものがあることを思えば、これはまさに素晴らしい機会であると思います。

ですから今日私は、自分の体験を通して、私たちの財団が、誰も手をつけないような活動を、誰にもできない方法で支援しているのだ、ということをお伝えすることができます。世界には、能力や意欲、あるいは組織的なリソースがないために立ち向かうことのできない難しい問題があります。しかし私たちには、このような問題に取り組む力があります。それは、財団に支えられる私たちは、私たちの持ちうるリソースや才能を、愛情と思いやり、純真な寛容の心を持って、独自の形で分かちあうことができるからです。ロータリーが創立百周年を迎えた年に、私は妻のメアリーと各地を訪問しましたが、行く先々で「世の中で、一番素晴らしい人々はロータリアンに違いない」とメアリーが何度も口にしたのはこのためでしょう。

私たちが幾度も目にしたのは、援助の手を差し伸べたい、という純粋でひたむきな熱意です。その熱意は、財団の財政的かつ実践的なリソースに支えられています。ロータリアンは、途方もなく大きかったり、とても歯が立たなかったり、あるいは取るに足りないとして誰も取り合わないようなニーズに取り組む技能と意欲の両方を兼ね備えています。

会長を務めていた当時、私は、忘れられない多くの体験をしました。あの素晴らしい一年の記憶が、数々の映像や声とともに頭をよぎります。その記憶は、痛ましいものから、気力を奮い立たせてくれるものまでさまざまです。その中でも、メキシコのモントレイで見た少女のことを私は一生忘れないでしょう。生まれつき耳が不自由だったこの少女の聴力は、補聴器1つで簡単に矯正できるものでした。しかし、少女の両親には、補聴器を購入するお金がなかったばかりか、少女を診察し、補聴器を彼女に合うように装用してくれる医療機関さえありませんでした。

ロータリアンは、この少女のような子供たちが何を必要としているかを知っていました。そこで、マッチング・グラントの援助を受けて多数の補聴器を購入したのです。私は、ロータリアンから補聴器を受け取った一人であるモントレイのこの少女が、補聴器を初めて付けたときの姿をこの目で見ました。幼いその少女は、母親の隣に座り、補聴器が調節されるのを待っていました。補聴器が作動し始めた瞬間、生まれて初めて母親の声を聞いて、少女の表情が大きく変わりました。私はそのとき、これまで見たこともないような最高の笑顔を見たのです。見渡すと、部屋中のみんなの顔が涙で濡れていました。

そこにいた全員が、この少女と家族、そして彼らに開かれた新たな人生の始まりを思い、歓喜に震えていました。それと同時に、この喜びの瞬間がどのようにもたらされたのかと、誰もが思いをめぐらせていたようでした。

その喜びの瞬間は、一人、あるいはほんの数人によってもたらされたものではありません。それは、私たち全員、つまり、奉仕に努めるすべてのロータリアン、ロータリーで信頼の輪を築いてきたすべてのロータリアン、そして決意したことに熱意を持って取り組んできたすべてのロータリアンが実現させた瞬間なのです。

またそれは、ロータリー財団があつてこそ実現した瞬間でもあるのです。

ロータリーの奉仕の第二世紀を迎えた今、来る年度は財団の方向性を決めていく上で極めて重要な年となるでしょう。私たちの前には、新たな挑戦が待ち受けています。この挑戦とは、私たちが誓った約束を果たし、その約束を今後幾世代にもわたって守り抜いていくためにも、必ず達成しなければならない挑戦です。

これらの果たすべき約束の一番目は、もちろん、ポリオ撲滅です。ポリオ撲滅は、これが達成されるまでロータリーの最優先事項となります。ポリオ完遂までの道のりは非常に長く、短距離走というよりは、マラソンのようなものと言ってよいでしょう。しかし、どのようなレースでも、ゴールが近づき、ゴールのテープが見えた瞬間、そしてあともう一息でゴールにたどり着くという最後の瞬間には、残りの力を振り絞って、もつと懸命に、もつと早く走ろうとするものです。ゴールのテープが目に見えたら、残るすべての力を出し切るしかありません。ポリオ撲滅は私たちの最優先事項であり、ロータリー財団の2009-10年度の第一目標です。

私たちの第二の目標は、未来の夢計画が焦点を当てる6つの分野を通じて、より良い世界を築くために財団をさらに充実させていくことです。これら6つの分野とは、次のとおりです。

平和と紛争予防／紛争解決

疾病予防と治療

水と衛生設備

母子の健康

基本的教育と識字率向上

経済と地域社会の発展

これらの分野はすべて、ロータリアンである私たちの優先事項であり、ケニー会長エレクトの掲げるテーマと強調事項に挙げられた優先事項とも重なります。これらは、ロータリーが過去数年間だけでなく、これまで何十年にもわたってロータリーが最も効果的に行ってきた奉仕活動の分野であり、最も大きな影響を与えてきた分野です。またこの先私たちが、何年、何十年にもわたり焦点を当てていくべき活動の分野でもあります。

私たちの第三の目標は、未来の夢計画を実施することです。未来の夢計画が目指すのは、財団に新しい活力を吹き込み、財団がロータリーの奉仕の新世紀を十分に支えられるようにすることです。もうご存知のことと思いますが、新補助金構成の試験段階（パイロット）が未来の夢計画の一環として実施されます。この新たな補助金構成に移行するためには、まず試験段階においてその効果を十分に試す必要があります。ですから私は、地区がこの試験段階に申請することを奨励いたします。

私たちの最後の目標である4番目の目標は、「毎年あなたも100ドルを」、ならびに恒久基金への支援です。財団の口座にあるすべてのドル、ポンド、円、ユーロが、自発的な寄付から寄せられた資金であるということ、を、認識していないロータリアンもいます。財団の資金には、会費は一銭たりとも含まれていないのです。私たち一人一人のなすべき仕事は、ロータリアンが今後も引き続き財団に惜しみない支援を寄せていくよう働きかけ、私たちが自ら毎年寄付を行うことによって、積極的に模範を示し続けていくことです。

財団の活動が、人々の生活をどれだけ変えているかは、必ずしも容易に理解できるものではありません。しかし、「百聞は一見にしかず」と言いますから、私の後にあるこの大きなスクリーンを利用して、私の講演を30分ほど短縮させていただきましょう。私たちの財団は、このような状況を（壊れた石橋の端の近くでかろうじて縄にしがみついた男性の写真がスクリーンに映し出される）、このように（修復された橋の写真に変わる）変えます。

米国、バージニア州、ニューポート・ニュース・ロータリー・クラブの会員であるケン・フランツ氏は、エチオピアの青ナイル川に架かるこの壊れた橋の写真を「ナショナル・ジオグラフィック」誌で初めて見ました。フランツ氏は、この橋が70年以上壊れたままで、この橋を渡るには、縄につかまり、その縄を12人の男性に引いてもらうしか方法がないことを知りました。縄からすべり落ちれば、死は免れません。この壊れた橋のために、地域の子供たちは学校へ通えず、住民は医療サービスを受けることもできず、農民は市場を訪れる道を閉ざされるという状態にありました。

そこでフランツ氏は、ロータリアンであるからには、この状況を何とかしなければ、と決意したのです。ロータリアンである彼がまず始めに頼ったのは、もちろんロータリーです。バージニア州の3つのクラブとエチオピアの1つのクラブが寄付を提供し、ロータリー財団がこれに補助金を組み合わせました。ロータリアンと地元ボランティアの援助を受けて、11トンの鋼鉄、セメント、機材が、250頭のロバの背中で運ばれました。そして、ついに橋が修復されたのです。

しかし、フランツ氏の活動はそれで終わったわけではありません。彼は、自身のクラブを含む31のロータリー・クラブから寄付を集めるとともに、ロータリー財団のマッチング・グラントを利用して、2007年末までに11カ国でさらに40の橋を建設しました。フランツ氏の目標は、2020年まで毎年500の橋を建てることです。彼の築いた橋一本一本は、経済と地域社会の発展につながり、人々の命を救うことになるでしょう。

雑誌で写真を目にしたケン・フランツ氏が、「自分にできることは何もない」と、ただため息をついて雑誌を閉じてしまうことにならなかったのは、ロータリー財団があったからです。ロータリー財団が存在したからこそ、彼は最初の橋と、それに続く何百本もの橋を築くことができたのです。

あるとき、ロータリーの長年の友人であったマザー・テレサに、一体どうやって活動を続けていくことができるのか、と尋ねた人がいました。どのようにして、来る日も来る日も、途方もなく絶大で、無駄に終わるかもしれない活動を続けていくことができたのでしょうか。マザー・テレサは、ただ次のように答えました。「私は、私にできることを、今いる場所で、私が持ちうる力を使って行っているだけです」

私たちはロータリーにおいて、同じことをしようとしています。私たちは、私たちがどこにいても、私たちが持ちうる力を使って、私たちができる最大限のことを行っていこうと努めています。ロータリー財団が、「世界でよいことをしよう」という、いたってシンプルな標語を掲げているのはこのためです。

ロータリーには、120万人以上の会員がいるからこそ、多様な方法で善行を行うことができます。ロータリーは、200以上の国と地域に存在するからこそ、世界各地で善行を行うことができます。そして私たちは、ロータリー財団という力強い味方に支えられているからこそ、世界を変えるような多くの善行を実現することができるのです。

「毎年あなたも100ドルを」が 意味すること

ブレンダ・クレシー
ロータリー財団地域コーディネーター

今からわずか8年後の2017年、ロータリー財団が創立百周年を迎えることを、皆さんはご存知でしょうか。そうです。ロータリー財団の標語である「世界でよいことをしよう」を、百年間、実践してきたことになるのです。ここで、私たちの新しい使命、「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」について考えてみましょう。皆さん一人ひとりの固い決意と参加、そして財政的なご支援がなければ、この使命を全うすることはできません。

今日、この場で、「人生を変えたストーリー」をいくつか紹介できるか、試してみるのも大変興味深いことではないでしょうか。「人生を変えたストーリー」、それはすべて、私たちのロータリー財団があったからこそ可能となったものばかりです。事実、「毎年あなたも100ドルを」の推進計画が開始されて以来、年次プログラム基金への寄付は、2003-04年度の5,500万ドルから、2007-08年度末の1億1,300万ドルへと倍増しました。しかし一方で、大半の財団プログラムの主な財源である年次プログラム基金に寄付を寄せているのは、全ロータリアンの26パーセントに過ぎません。

ここで、次のことを想像してみてください。皆さんの年度に、地区のロータリアン全員が実際に寄付をしてくれたら、どうなるだろうか、と。会員が100パーセント参加するという事実を、世界はどのように受け止めるでしょうか。また、世界はどのような影響を受けるでしょうか。実際に全員が参加したなら、地区の会員増強にどれほどの効果を及ぼすでしょうか。確かなことは、ロータリー・クラブと地区が、さらに多くの人道的プロジェクトを計画したり、実施したりできるようになることです。

7月1日に地区のトップとなられる皆さんに、いくつかの問いを立ててみたいと思います。

ガバナー年度中に達成したいことは何でしょうか。

金額の大小にかかわらず、毎年の寄付が大切であることを地区内のロータリアン一人ひとりに理解してもらうために、今から、何ができるでしょうか。

ロータリーは、世界一のボランティア奉仕団体ですが、世界一の募金・慈善団体となることもできるでしょうか。

慈善の伝統は自分たちの手で築いていくしかありません。ほかの誰かが築いてくれるわけではないのです。ロータリアンであっても、自分が平和に寄与できる存在であると自覚していなければ、どうやって世界を変えることなどできるでしょうか。

匿名の引用をひとつご紹介したいと思います。「世界にとって、あなたは一人の人間に過ぎないかもしれない。しかし、一人の人間にとっては、あなたが世界であることもあるのだ」皆さんが、最後に誰かの人生を変えたのは、いつだったでしょうか。幼な子の口にポリオワクチンの尊い2滴を垂らし、その瞳を見たときでしょうか。視力を回復し、わが子の顔を初めて目にした母親の姿を見たときでしょうか。財団に寄せた自分の寄付が、実際にどこで誰の人生を変えたかを、皆さんが知ることはないかもしれませんが。それでも、こうした寄付が、世界中でとてつもなく大きな影響をもたらしていることを、皆さんは確信しているはずですよ。

さて、皆さんは、どのように世界を変えていくことができるでしょうか。それは、個人的に誓った約束であったり、ロータリーへの情熱であったり、理由はともあれ、積極的にロータリー・クラブや地域社会とかかわり、絆を築いていこうとする皆さんの情熱が、世界を変えていくのです。

ロータリー財団は、ロータリアンのものです。財団は、世界中でロータリーのプログラムを推進するために存在しています。どのプログラムを支援し、どのぐらいの資金を充てるかを決めるのは、リーダーである皆さんです。「ロータリーはあなたの手の中に」というテーマの通り、世界の未来を形づくり、人々の人生に意味のある変化をもたらす援助の担い手となるのは、ほかでもない皆さん一人ひとりです。世界にどれだけ変化をもたらしたかが、私たちの成功の尺度となりますが、この成功は、ロータリアンでありリーダーでもある地区ガバナーにかかっています。とは言え、これを一人でやり遂げる必要はありません。現職理事や元理事、財団管理委員、ロータリー財団地域コーディネーター、ゾーンのチーム、地区財団委員会など、皆さんには、成功を後押ししてくれる素晴らしいチームがあります。また、十万人のロータリー財団学友の存在も忘れてはなりません。学友たちは、財団がいかにして彼らの人生を変えたか、その体験のおかげでどれだけの学友が人々の人生を変える仕事をしているかを、語り伝えることのできる存在です。

では、「毎年あなたも100ドルを」とは何を意味するのでしょうか。年次プログラム基金に寄付することは、とりもなおさず、世界と寄付を分かち合うことです。ロータリーやポール・ハリス・フェローのピンを身につける時、皆さんが、ロータリアンの一人として世界中の人々を思いやり、より良い世界を築こうとしていること、また、そうしたロータリアンが全員、しかも毎年、支援の手を差し伸べているのだと示すことになるのです。

来る年度には、「毎年あなたも100ドルを」の5年間の成功を受け継ぐこととなります。募金の成功は、それ自体で素晴らしいことです。しかし、真の成功は、ロータリアンが慈善の心をもって世界中で成し遂げてきたことです。このような成功こそが、未来の夢計画、そしてロータリー財団創立百周年へと向けての力となるのです。

今後の成功のキーパーソンとなる皆さんは、さらに大きな視野を見据える必要があります。ロータリー財団が世界の募金・慈善団体となるための土台を築き、その成功の中心的役割を果たすのが、ここにおられる皆さんなのです。「毎年あなたも100ドルを」のほかにも、私たちが同時に支援している3つの主要な募金推進計画があります。

ポリオ・プラスのためのロータリーの募金チャレンジ

ロータリー・センター大口寄付推進計画

2025年までに10億ドルを目標とした恒久基金

これら4つの各分野で成果を挙げていくために、何ができるでしょうか。ここでは、地区ガバナーの果たす役割が大きく物を言います。寄付が大勢の人々を助けるためにいかに活用されているかをロータリアンに理解してもらうために、財団に関する皆さんご自身のストーリーを語り伝えていかなければなりません。

私たちが行っている素晴らしい活動をロータリー以外の人々に伝えることに、私たちが以前よりもずっと力を注ぐようになったことは確かです。一方、謙遜の気持ちから、活動がひっそりと行われていることも多々あります。しかし、真実は極めてシンプルです。すなわち、「毎年あなたも100ドルを」とは、財団プロジェクトとプログラムの数が増え、それに伴い、意欲と情熱あふれるロータリアンもさらに増えることを意味するものなのです。

最後に、私自身の財団のストーリー、生涯忘れることのできないストーリーを一つお話したいと思います。ロータリアンのグループで車椅子を届けるボランティアをしていたときのことです。足のない老人が、若者に背負われて部屋に入ってきました。この若者は彼の孫でした。孫は、お祖父さんを新品の赤い車椅子にそっと降ろしました。背筋をしゃんと伸ばして車椅子に座ったお祖父さんは、満面の笑みを浮かべ、高々と手を掲げると、涙を流しながら神への感謝の言葉をつぶやきました。そして私たちのほうを向くと、移動の自由を与えるこの特別な贈り物に対して、何度も何度も繰り返し礼を述べました。そうしたかと思うと、突然、幸せと喜

びのあまり、部屋の中央をぐるぐると車椅子で回り始めました。その時、部屋の奥の壁際に立っていた孫のほおを涙がこぼれ落ちたのを、私は見逃しませんでした。ロータリーの素晴らしい活動は、受益者本人だけでなく、周囲の人々の人生をも変えるのだと、その時、私ははっきりと悟ったのです。後日、この孫が、何年も祖父の足代わりとなってきたことを知りました。あの日、この若者にも新たな人生が授けられたのです。

ロータリー財団の魔法の力を、どうか忘れないでください。全力で支援していくことの大切さを、胸に刻んでください。ロータリーの指導者である私たちは、ロータリアンが、希望のない人々に希望を与え、世界中で極貧にあえぐ人々に貧困から抜け出す機会を与え続けていけるよう、この財団を末永く守っていかなくてはならないのです。

次期国際ロータリー指導者であるガバナー・エレクトの皆さん、これが皆さんの責務です。帰国後には、年次プログラム基金を支援することの大切さ、「毎年あなたも100ドルを」の重要性を地区のすべての会員に理解していただけるよう、ご協力をお願いいたします。

今日、この会場を後にされるときには、ジョン・ケニー会長エレクトの言葉、「ロータリーの未来はあなたの手の中に」をしっかりと胸に刻んでください。そして、この素晴らしき財団の創設者であるアーチ・クランプ元RI会長の次の言葉を、どうか思い出してください。「明日のロータリーがどうなるかは誰にも予測できない。しかし、ただ一つ確かなのは、明日のロータリーが今日のロータリアンにかかっているということだ」

皆さまのRI事務局

エド・フタ(布田)

国際ロータリー事務総長

RI事務局は、加盟クラブと地区が行うロータリーの仕事のすべてを援助するためにあります。従って、RI事務局の職員は、ロータリーとロータリー財団の方針ならびにプログラムに精通していることはもちろん、その知識をさまざまな媒体と言語を通じてロータリアンと分かち合う必要があります。そして、会員基盤の構築から募金活動、効果的な研修方法にいたるまで、幅広い主題に関する質問にいつでもお答えできるよう準備しておかなければなりません。

事務局は、米国、イリノイ州、シカゴのすぐ北にあるエバンストンに本部を置き、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、インド、日本、韓国、スイスに7つの国際事務局があります。これらの事務局の職員が、何千件というロータリアンからのEメールや電話、手紙に、日々お応えしています。職員はまた、ロータリーにさらに関与し、成果をあげていただけるよう、ロータリアンのための情報源となる出版物や電子資料を作成しています。提出された補助金の申請書に不備がないかを確認するのも職員の仕事です。ロータリーの将来を決めるRIと財団の各種委員会、RI理事会、財団管理委員会のお手伝いもしています。

事務総長は、RI事務局の最高執行責任者です。私は12代目の事務総長となります。ロータリーの初代事務総長であったチェス・ペリーは、1910年から1942年までの32年間にわたりこの職務を務め、ロータリーの発展に重要な役割を果たしました。創設者ポール・ハリスは自らを「建築家」と呼び、ペリーを「建設者」と称したほどです。

初期の事務総長はみな、今日の方針の多くを形作る上で重要な役割を果たしました。近年になり、事務総長は組織の規模が大きく発展していくのを目の当たりにすることになりました。

私が就任してからの8年間は、ちょうどテクノロジーとコミュニケーションが世界的な変身を遂げた時代と重なりました。ですから、私の大きな課題の一つには、コスト効果の最も高い方法でロータリアンに対するサービスを拡大するために、新しいテクノロジーを使う道を模索することがありました。重要なプロジェクトの一つとして、ロータリーのウェブサイトの改善と英語以外の言語で提供される情報の拡大がありました。これは、まだ完成には至らず、ロータリー・フォトライブラリのデータベースに随時写真を追加するなど、今後も継続的に改善と拡大が行われます。今年の後半には、ウェブサイトになたなEラーニング機能が追加される予定です。

効率を期するには、適切なテクノロジーが必要となります。会員データをひとところに統合するという重要なプロジェクトに踏み切ったのは、このためです。個別になっていたデータベースの情報をすべて統合すれば、より完全な会員情報を把握することができ、皆さんにもより正確で詳細な情報をお届けできるようになります。職員の仕事の効率も上がり、会員とのやり取りも効果的なものとなるはずで

また、テクノロジーを利用し、紙の使用を減らすことも事務局の狙いの一つです。できるだけ電子的な手段で情報を送ることにより、値上がりしている印刷費と郵送料の出費を抑えると同時に、環境を思いやろうという事務局の目的もかなえられます。世界本部では、常に環境を考えた行動を実践するよう心がけています。職員からなるグリーン委員会では、発泡スチロール製のコップや使い捨てのボトルを使用しないよう奨励しています。また、リサイクルも徹底し、職員の紙の使用量も極力抑えるよう努力しています。

今年度、事務局はロータリアンとともに2つの重要な推進計画を支援することになりました。一つはロータリー財団未来の夢計画、もう一つはロータリーの1億ドルのチャレンジで、こちらは先ごろ2億ドルのチャレンジに変わりました。

事務局各部署の職員は、未来の夢計画の試験段階に向けて、準備を進めており、詳細の最終調整を行う未来の夢委員会に援助を提供しています。また、今後4年間にこの計画への移行がスムーズに運ぶよう、計画、試験段階（パイロット）、パイロット地区の研修に関する情報提供も行っています。パイロット地区の申請は、この国際協議会直後より、ウェブサイトの会員アクセスからオンラインで行えるようになります。

ロータリーのポリオ撲滅活動に関しては、2007年にビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団から寄せられたロータリーの1億ドルの補助金の発表を受けて、事務局の関与も増加しました。新しく「End Polio Now」のウェブサイトを立て、ロータリアン以外の人にポリオとその撲滅に対するロータリーの役割について知ってもらい、チャレンジへの寄付の機会を知らせる場を作りました。ポリオの問題と過去20年間にわたるロータリーの取り組みに関する展示コーナーも設けました。RI世界本部を訪問される際には、ぜひロビーに設けられたビデオや写真などによる展示をご覧ください。

このチャレンジ寄付の支援に向けて、事務局では、皆さんが取り組む募金活動について広めることにより、ロータリー内外で皆さんの活動を知っていただきたいと考えています。ぜひ地区の成功例をお寄せください。また、頻りにRIのウェブサイトを訪れ、チャレンジに寄せられた新しい大口寄付や募金活動のアイデアについてもお読みください。

事務局でも独自の募金活動を行いました。職員は、ロータリーの1億ドルのチャレンジに6,000ドル以上の寄付を行いました。これは、「ジーンズをはいてポリオを支援しよう」の合言葉の下、寄付をした職員に月一度、職場でのジーンズの着用を認めるという募金活動でした。

新しい推進計画を支援するばかりが、私たちの仕事ではありません。懸念事項を発表し、ロータリーを前進させるためのアイデアを分かち合う機会となる規定審議会の準備は、3年ごとに開始されます。12月31日の締切日までに、事務局では2010年規定審議会のための立法案を数百件受理しました。

現在、立法案を定款細則委員会が理事会に代わって検討できるよう、その準備が進められています。委員会が承認した後、立法案は1冊にまとめられ、英語のほかに5カ国語に翻訳されます。正式に提案されたすべての立法案を収めた立法案集10部が、9月末までにRIから地区に送られます。皆さんには、地区の代表議員と補欠議員が、投票手続きと案件の内容をよく理解していることを確認していただきたいと思っています。

このほか、私たちは締め切りのない継続的な仕事を常時行っています。私たちは常に会員の動向を分析し、会員の勧誘と維持を強化する方法を探しています。研修用の資料は、クラブレベルの問題をさらに多く取り上げるため、改善と拡大が行われました。そして、ロータリアンが、クラブと地区を効率的に運営し、効果的なプロジェクトを立案できるよう、また、新会員の勧誘と教育を行い、ロータリーの素晴らしい活動を世界に伝えていくことができるよう、新しいリソースの作成も手がけています。

1月には、全クラブに広報資料の一つである「人類のために活動します」の最新版をお送りいたします。印刷、テレビ、ラジオ、インターネット、看板用の今年の公共奉仕広告は、会員基盤の構築とポリオ撲滅に焦点を当てています。ロータリーについて地元地域で知ってもらうため、この公共奉仕広告を活用するよう、クラブに奨励してください。ロータリアンであれば誰も、自分たちが助けた人々について、あるいはその奉仕を通じて得たものについての感動的な体験談をお持ちのはずです。ロータリーの影響力と、ロータリアンだからこそ味わえる充足感をほかの人に知ってもらうためにも、私たちはこういった体験を伝えていく必要があります。

この協議会中に、事務局の職員と触れ合う機会をもつていただけることを願っております。利用できるリソースにはどのようなものがあるかについて尋ね、事務局に対する要望を伝え、奉仕や会員増強の成功例を分かち合ってください。あるいは、ロータリーの方針について質問し、来る年度に備えて名刺の交換を行うのもよいでしょう。次年度、皆さんが地区を導いていくのに必要な情報と援助を確実にお届けするのが、私を含めた職員の仕事です。

職業奉仕：忘れ去られた部門

ラジェンドラK. サブー
元RI会長

職業奉仕について話すようジョン・ケニー会長エレクトからお話をいただいたとき、色あせたテーマとみなされているこの主題を、私は大変嬉しく受け止めました。それは、国際協議会の本会議でお話させていただく榮譽はもちろんのこと、職業奉仕が私の私生活、そしてロータリー人生における指導理念となってきたからです。

講演に備えようと考えをめぐらせていたところ、「何ゆえに私たちはこの部門をおろそかにしてきたのか」という問いに驚愕を覚えずにはいられませんでした。

(英語では)「ボケーショナル」であるはずの職業奉仕について、バケーションをもじった「バケーショナル」や「時折」という意味の「オケーショナル」という言葉を使うロータリアンがいます。クラブでも地区でも、職業奉仕部門が最も軽んじられ、これを担当するロータリアンも往々にして活力に欠けています。

しかし、今日が新しいスタートです。ただいまこうして皆さんの前に立つ私は、希望に満ちています。会場から新しいエネルギーが押し寄せてくるのを感じます。こうして見渡しますと、ここにいらっしゃるのは、ご自分の地位と哲学と信念によって人生を奉仕に捧げてきた方々ばかりです。皆さんは、熱意と気品と一貫性をもって真理を実践し、信念を貫き、価値観を行動に移す準備の整ったリーダーです。

皆さん一人ひとりの中に、あの伝説をつくったオリピック水泳選手、マイケル・フェルプスが潜んでいるのが、私には見えます。彼は試合前に、当時、金メダル最多獲得の記録保持者だったマーク・スピッツを引き合いに、第二のマーク・スピッツ誕生するかと聞かれたとき、こう答えました。「マークは史上最高の水泳選手だが、第二のマークを目指しているわけではない。私が目指しているのは、マイケル・フェルプスとして1番になることだ」

誰かの肩にもたれかかることなく、背筋を伸ばして自分の足で立つとき、皆さんは新たなるロータリーの高みを象徴することになるのです。

皆さん、職業奉仕は私の職業生活を導いてくれた指針です。

針の製造業を営む中でドイツのパートナーと長年手を組んでまいりましたが、私は彼らから絶対的な信頼を勝ち取り、彼らの利益のために尽くしたこともあります。私には、技術を独占し、機械もそっくりコピーし、工場をそっくりそのまま再現して、大儲けする機会がありましたが、それを思いとどまったのは、ロータリーの影響があったからです。そして32年後、私がパートナーとの関係に終止符を打ち、株を売り払ったとき、サブーの社会的な立場はどうなるのかと、世間は思ったようです。しかし、倫理に対する私の価値観と信念は揺るがず、自分自身に対する確信は大きく育っていき、社会の見る目も変わっていったように思います。

職業奉仕部門のプログラムとプロジェクトについては討論会で心置きなく話し合っていたことにしまして、ここでは一つの筋書きを皆さんと分かち合いたいと思います。

職業奉仕において私たちは、ロータリーの綱領の第二番の最初の文「事業および専門職務の道徳的水準を高めること」を避けて通るきらいがあるように思います。

20世紀の初頭、ちょうどロータリーが誕生した時期、ビジネス界の大物たちは、こぞって、「商売は商売。一般人など自分の知ったことではない」と傲慢に言い放ったものです。富と名声を得るためなら手段を選ばぬ利己主義者たちが跋扈(ばっこ)する世の中でした。

そのような身勝手に閉ざされた商売のやり方がまかり通っていた時代に、ロータリーは勇気と信念をもって倫理という繊細な問題を扱ったのです。1910年、シカゴで開かれた最初のロータリー大会で、職業奉仕の父として知られたアーサー・シェルドンは、「事業とは人間奉仕の科学である」、また、「仲間に最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」と言いました。これはまことに至言であり、現在もなお生き続けている名言です。

あれから状況は変わったでしょうか。大企業は影を潜め、株価は下落しています。また、社会におけるサービスを規制したり、促進したりするはずの人々が、欲に目をくらませる例も後を絶ちません。最近では、金融界の大手が破綻するという事件もあり、お金も仕事も安定も将来も何もかも失って路頭に迷う人々の苦しみを目の当たりにしました。すべては、個人的な資産を増やそうという欲から生じたことです。数字のゲームを生業とし、他人の運命を手繰る少数の人々が引き起こしたのです。

今日ほどロータリーの倫理の信条が必要とされる時代はありません。

私たちはこのような言葉をよく耳にします。「社会の悪はすべての組織に映し出され、ロータリーも例外ではない」「ロータリーは説教すべきではない」「倫理を語るのはいいが、実践はむずかしい」

このような言葉を発する人に、こう言ってやりましょう。「倫理は古めかしいものではない。高潔さと誠意は、今も昔も変わらない」のだと。倫理とは、事業や職業に限らずすべてに及ぶもので、家庭の価値観によって変わります。果実が必ず木のすぐそばに落ちるように、子供も親の足跡(そくせき)をたどることになるのです。

ミニゴルフ場に二人の息子を連れていったポピー・ルイスという父親の話をしてしまおう。チケット売り場の係が、入場料は「大人3ドル、7歳以上の子供3ドル」と言いました。

そこで父親が「長男が7歳で次男が3歳なので、私も合わせて6ドルですね」と言うと、係の男はこう言いました。「一体、宝くじでも当たったんですか。長男が6歳だって言えば3ドル余計に払わずに済んだんですよ。1歳ぐらいの違いなんてわかりやしないんですから」

しかし、父親の答えはこういうものでした。「おっしゃるとおり、あなたには息子の年はわからないかもしれませんが、息子は知っています。私がごまかしたりしたら、子供もそういうことをする大人になってしまうでしょう」

「倫理とは何か」という質問に遭遇することがあります。そこで「相手の立場だとしたら、どう感じるか」という昔ながらの命題を出させていただきましょう。

- ウォールストリートジャーナルの第一面に掲載される場合と、地元の知り合いだけが読む地方紙に掲載される場合とでは、違った態度で臨むか。
- わが子が同じような行動を取るとしたら、どうか。
- もしも倫理に反する行為の被害をこうむるのが自分の大切な人だとしたら、行動を改めるか。
- 最後に最も簡単な質問をしまおう。自分の行動を、あなたの母親はどう思うか。

ロータリーの指導者である皆さん、「四つのテスト」は今日もなお重要な意義を持っています。学校で作文コンテストを実施したり、額入りの「四つのテスト」を配るだけでは到底十分とは言えません。職場においても、このテストを壁に掛けておくだけでは、足りないのです。このことをクラブ会員に理解してもらうよう努めてください。「自分自身がどれだけこのテストを実践しているか」これが本当のテストです。

ロータリーには、深い意味をもつ「職業宣言」があります。これはすべてのロータリアンが実践しなければならない誓いです。

実際のところ、正義を持つとするとする気すらない人も大勢いますが、ほとんどの人は正義を好むものです。しかし、正義の道を知ることと、その道を実際に歩むことには、大きな違いがあります。正義の道は険しい道で

す。しかし、ロータリアンは普通の人々ではありません。言葉から実行へと移す勇気と決意が必要なだけです。行動を伴わない知識には何の価値もないことをどうか忘れないでください。

RI長期計画の優先項目の一つに「ロータリー独特の職業奉仕への取り組みを強調する」ことが挙げられているのは、大変意義深いことです。これはワークブックに記載されています。事業や職業団体を通じて人々に影響を与えるには、まず倫理意識を持ち、自らが模範を示すことのできる人間とならなければなりません。「行動のすべてを総合したものが、その人自身となる」とは、ガンジーの言葉です。

地理の授業で探究心旺盛な生徒が「先生、地球の重さはどれくらいですか」と質問しました。不意を突かれた教師は、明日答えようと約束して家に帰り、本で調べた末、翌日、教室に戻って、「地球の重さは10億トンだ」と、答えを述べました。これに対し、その男子生徒は再び「先生、それは人間を含む重さですか」と尋ねたといいいます。

この少年の話聞いて、考えるところがありました。地球の場合でいうなら、人間を入れても入れなくてもその重さにはたいして変わりはないかもしれません。しかし、ロータリーの場合、職業分類がなければその価値は劇的に減少してしまいます。

職業分類の重要性を取り戻さなくてよいものでしょうか。私にとって職業分類は、ロータリーにおける自分の看板のようなものです。「ロータリアンの一人ひとりがロータリーの理想主義と自分の職業とを結ぶ輪の役をする」というポール・ハリスの言葉を忘れてはなりません。

優れた職業活動を称える各賞をはじめ、職業に関する指導、相談、訪問などは、いたるところで実施され、成果をあげています。こういった活動は、あらゆる有用な職業の価値を認めることの表れですから、今後もぜひ積極的に継続していただきたいと思います。

最も大切なのは、専門的な知識や技能を分かち合うことです。これによって職業的な充足感が非常に高まります。このことを、私は妻のウシャから学びました。

チャンディーガルに引っ越してから、ウシャは元々好きだった園芸にますます夢中になり、美しい花を育ててはあちらこちらの品評会に出品し、各賞を総なめにしていました。そんなわけで数年も経つと、妻が出品すると知るとほかの人たちは出品を断念するようになってしまいました。しかしそれは、妻の望むところではありません。ウシャは園芸好きの人々と自分の種や苗を分かち合い、専門的な知識を伝授し、我が家の庭に人々を招くことにしたのです。

この妻から、私は自分も職業上のスキルを分かち合い、その結果得た喜びを広めてくことを教わりました。皆さんも配偶者の言うことは聞くものです。たくさん知恵を借りることができます。お世辞ではなく、本当のことです。

ロータリアンは、才能と独自性ある経験豊かな人々です。そのロータリアンが知識を分かち合えば、人々の人生を、社会を、明るく照らすことができます。

四大奉仕部門は、一つの部門が次の部門へとつながるよう順序立てられています。クラブ奉仕は、最初に来るべき組織構成です。次に来るのが、会員の基盤であり条件となる職業奉仕です。

ロータリーとは、それぞれ職業を異にしながらも考えを同じくする人々の集まりです。清廉潔白で広く温かな心の持ち主である会員たちが地域社会に奉仕の手を差し伸べるとき、ロータリーは社会から真の意味で認められるようになります。

職業奉仕を取り去れば、ロータリーは単なる地域の奉仕団体となってしまいます。また、職業奉仕から倫理を取り去れば、完全にその意義が失われてしまうでしょう。

世の中には人道的な活動に取り組んでいる非政府団体が数え切れないほどあり、倫理や価値観を信奉する団体にも事欠きません。しかし、職業を基盤とした倫理と人道的な奉仕とを車の両輪として、同等に重要視している団体は稀です。この稀な団体がロータリーです。

事業や職業の環境が悪化する中で、世界が求めているのは倫理観と社会的責任感の強い人々です。

ロータリーは、社会奉仕と国際奉仕に秀でていますが、職業奉仕の分野も同じように強化することができるでしょうか。私たちは、この強力な車の両輪を新しい看板として掲げることができるでしょうか。ロータリーの倫理的な基準に対して熱意を新たにすることができるでしょうか。

これらのことができたなら、ロータリーは新しい活力を取り戻し、21世紀のニーズに対応していけるに違いありません。そして、大勢の人が参加したいと集まってくるでしょう。

自分という枠を超え、ガバナー就任年度という枠を超えて、皆さん自身が時代の先頭を歩んでいくのです。

皆さんにぜひお願いいたします。

- 地区職業奉仕委員会を務める行動力ある活発なロータリアンを見つけてください。これをクラブにも奨励してください。
- すべての研修プログラムに不可欠な主題として「倫理」を取り入れてください。
- 職業プロジェクトの指針をまとめた資料を作成し、配ってください。
- 適材適所を考慮し、任務を割り当ててください。
- 奉仕の第二部門を明確に理解してください。
- クラブプログラムにすべてのロータリアンが参加できる機会をつくってください。
- 知識と経験と時間を捧げるようロータリアンに奨励してください。
- 事業や職業団体と密接な関係を築くようクラブに求めてください。

イタリアのトリノで開催された2006年冬季オリンピックで、クロスカントリースキースプリントのチームを率いていたカナダのサラ・レナー選手に、競技途中で左のストックが折れてしまうという事態が発生しました。彼女はそのまま前に進もうとしましたが、上り坂にさしかかり、ほかの選手たちが追い越してゆくなか、勝利の望みは絶たれたかに思えました。ところがそのとき、信じられないことが起こりました。コースの脇から進み出てレナー選手にストックを渡してくれた男性がいたのです。そのストックで巻き返そうと再び懸命に滑り出した結果、カナダチームは銀メダルを獲得しました。

ストックを手渡してくれた恩人は、ノルウェーチームのコーチ、ビョルナル・ハーケズメン氏でした。このコーチは一夜にしてカナダ中のヒーローとなり、各誌が一斉に彼を称えました。しかし、コーチは淡々としてこう言うのみでした。「オリンピック精神を実践したまでです。同胞を助けずして自分のチームが勝ったところで、本当に勝ったことにはならないでしょう」

職業倫理の鑑と言えましょう。自由市場による競争の世界で、倫理は予防対策となりつつあります。ロータリアンにも学べるところがあるのではないのでしょうか。

「Vocation」すなわち職業という言葉は、ラテン語で「呼ぶ」という意味の「Vocare」に由来します。皆さんの職業も私の職業も、才能を捧げ、知識を分かち合い、成功の豊かさを共有していくよう、私たちを呼んでいるのです。

精神的な指導者であるスワミジにこう聞いたことがあります。「時として自分の仕事を犠牲にしてまで、ロータリーのために時間を割き、任務を果たすことに、果たして意義があるのだろうか」と。「人間として成長できるなら、それは意義がある」というのが、スワミジの答えでした。

ロータリーにいただいたご恩は計り知れません。この世を旅立つとき、私の手は空っぽではなく、ロータリーから授かったものでいっぱいになっていることでしょう。それも職業奉仕に負うところが大きいといえます。

「ロータリーのおかげで人間的に成長できているだろうか」とご自身に問いかけてみてください。

職業奉仕部門の旅は、人生の旅そのものです。近道も高速道路もありません。人々の住む町や村に通じる道々を行くのです。そこで出会った人々を助け、その恩返しに、皆さんが頂上を目指して上るとき、今度は彼らが後押ししてくれるでしょう。この旅が皆さんを人間として成長させ、皆さんの中の眠れる巨人を揺すり起こし、無限の可能性に気づかせてくれるのです。

この旅路で皆さんがガバナーとして指導する一年は、大変意義深いものです。忘れ去られた職業奉仕の道を勇気とともに歩んでください。障害を乗り越え、「責任」と「信頼」という重みある言葉を携え、この奉仕部門をよみがえらせてください。

ガバナー年度に、各種行事の参加者名簿や出版物に掲載される写真とほめ言葉ばかりが皆さんの存在意義ではありません。皆さんの存在意義は、時間という砂の上にするされる足跡です。2009-10年度の砂の上にしつかりと残された忍耐、勇気、粘り強さ、行動力の足跡は、変化という風が吹いても消えることはないでしょう。

皆さんの旅は、後々まで忘れがたいものとなることでしょう。朋友の皆さん、今、目覚め、立ち上がり、前進してまいりましょう。皆さんは、何かを成し遂げる運命にあるのです。

青少年への奉仕

フレデリッヒ・ネダマイヤー
RI研修リーダー

「人生で最も素晴らしい1年だった」とは、交換を終えて帰国した学生からよく聞かれる言葉です。その言葉には、「交換をやり遂げた。人生で貴重な知識を得た」というように交換での体験をととても誇りに思う気持ちを感じられます。外国に1年間留学した17歳、18歳の少年・少女は、新しい文化、それも母国の文化とは対極にあるような環境にも順応して、ふさわしい言動をとりながら生活できるようになりました。親切なホストファミリーのもとで暮らし、受入ロータリー・クラブから支援された彼らは、地元の学生たちと一緒に学校に通い、親の助けを借りることなく、自力で困難な状況を乗り越えることができたのです。有意義な体験をした若者たちは自信と独立心を備え、さらには未知なるものに対して寛容な心を持ち、問題が起こっても積極的に対処しようとする姿勢を身に付けて帰ってきます。

私たちロータリアンには、青少年に奉仕し、彼らの教育と発育に寄与する機会があります。これは私たちの責任でもあります。青少年は、まさに私たちの未来そのものであり、かけがえのない存在です。私たちが身を粉にしてプログラムを運営し、彼らが社会の一員となるのを手助けすれば、ゆくゆくは責任感のある未来のリーダーが育っていくことになるでしょう。そして私たちの努力は、青少年のやる気と行動、笑顔によって、たちまち報われることでしょう。青少年との活動において忘れてはならないのは、彼らを守り、安全な環境を作ることです。グループ討論では、この責務について詳しく取り上げることになっています。

ロータリーには、青少年に奉仕するプログラムが数多くあります。地元のプログラムや国際的なプログラム、恵まれない人々を支援するプログラムから優れた技能を持つ人々を支援するプログラムなど、実に多種多様です。中でも、新世代を対象に常設されている4つのプログラムが、ローターアクト、インターアクト、RYLA、ロータリー青少年交換です。

地区ガバナーとなられる皆さんは、青少年や青年のためのプログラムを改善し、新しくプログラムを始められる立場におられます。ガバナーはプログラムを支援し、監督するよう求められています。ロータリー・クラブは、ガバナー月信や地区のウェブサイトをはじめとした媒体を通じて、常に情報を必要としています。委員会会合やオリエンテーションなど、特にロータリアン以外の参加者がいる場面では、地区ガバナーの参加が欠かせません。また地区やクラブの行事には、プログラムの若き参加者たちを含めるとよいでしょう。

こうした責務を遂行するために、ガバナーはさまざまな支援サービスを活用することができます。世界本部や国際事務局には、大変優秀なRI職員がそろっています。また、RIのウェブサイトでは要覧や資料、書式をダウンロードすることができます。さらに、各ゾーンで任命されている青少年奉仕支援グループのコーディネーターは、アドバイスやプログラムの情報を提供し、ガバナーや地区役員を支えてくれます。

ローターアクト、インターアクト、RYLA、青少年交換の4つのすべてのプログラムには国際的な面と地域的な面があります。その国際的な一面に、若い参加者たちが親善と平和の使節を務めるということがありますが、次に具体的な例をご紹介します。

あるローターアクト・クラブでは年次プロジェクトで、シェルターボックスを購入する資金を集めました。購入されたボックスは、自然災害で何もかも失った被災地域に送られました。ボックスには、大家族が日常生活を送るのに十分なテントや日用品が入っています。後日、ローターアクトのおかげで家族が生き延びることができた、というメッセージを受け取ったローターアクト者たちがどれだけ喜び、誇りに思ったかを想像してみてください。

複数の国から学生を集め、国際的なRYLAキャンプを実施している地域もあります。参加者からは、隣の国の学生たちと簡単に友だちになることができた、という声も聞かれます。共通点がたくさんあり、解決すべき同じような課題を抱えていることを知って驚いたそうです。

そして最後に交換プログラムです。海外での生活で、学生は留学国の生活を内側からのぞくことになります。彼らは教えることもあれば教わることもあり、受け取ることもあれば与えることもあります。受入クラブから選ばれて、全国予防接種日に参加したある交換学生は、幼い子供たちへのポリオ予防接種を手伝うことができ、大変感動したと話してくれました。

各地域のロータリー・クラブは、こうしたプログラムから得るものがあります。サマーキャンプの運営、インターアクト・クラブの支援、RYLAセミナーの実施などを通じて、ロータリアンが団結し、クラブ全体に活気が生まれます。プログラムはクラブに影響を与えるだけでなく、地域社会にも及びます。青少年プログラムは参加する当事者だけのものではありません。その家庭や隣人、学校、友人にも恩恵をもたらします。ロータリー・クラブの奉仕が地元で知られるようになれば、良いイメージが生まれます。青少年プログラムがロータリーを一層充実させるのです。

青少年プログラムへの参加は多方面で成果をもたらします。皆さんもぜひ、青少年交換、RYLA、インターアクト、ローターアクトのプログラムをどうか始めてみてください。また、現在プログラムを行っている地区はさらなる改善に力を入れてくださるようお願いいたします。

ロータリーの公共イメージはあなたから

ボブ・エイトケン

公共イメージ支援グループ・ゼネラル・コーディネーター

まずはじめに、右手を挙げていただけますか。そして私の後に繰り返して言ってください。「誓います!」とおめでとうございます。さて、ここにいる皆さんは地区ガバナーとなる準備研修を受けるためだけと信じて、サンディエゴまでお越しにいただいたことと存じますが、実のところ、さらに良いお知らせがあります。皆さんはたった今、ロータリー地区でのもうひとつの大きな任務に誓いを立ててくださったのです。それは、公共イメージ地区コーディネーターとしての役割です。さあ、皆さんも興奮を感じていただけたのではないのでしょうか。実際、すべてのロータリアン一人ひとりがロータリーの公共イメージの発展に寄与するわけですから、これは興奮を伴う任務なのです。公共イメージの発展は、ロータリーの奉仕の第二世紀に踏み出したばかりの今、熱意あるロータリアンである私たちが挑む最も重要な課題です。

皆さん、ロータリーの公共イメージを高めたり、すべての地域社会で広報活動を行っていかない限り、ロータリーの会員数を世界で増やしていくことはできません。公共イメージの向上を支援する約2百万人のメンバーが、皆さんのリーダーシップと先導を待っています。その他の課題や任務に加えて、皆さんは2009-10年度に大勢の支援チームを任命する権限もっています。地区委員長、地区委員会委員、クラブ委員会委員長、クラブ委員会委員など、皆さんの思い描くままの構造をつくることができます。しかし、公共イメージの向上における本当のリーダーシップと意欲は、ガバナーである皆さん自らが示していかなくてはなりません。行動を呼びかけていくのは皆さんです。皆さんがロータリーの公共イメージを発展させる大切さを信じ、本当にそれを実現させようと考えられるなら、チーム全体にこの信念が伝わり、ロータリーの公共イメージは、ロータリアン一人ひとりの責任であることを理解してくれるでしょう。

では、公共イメージ/広報とは実際に何を意味しているのでしょうか。

さまざまな言い方がありますが、意味するところはほぼ同じです。それは、「一般の人々の意見や反応に影響を与えるような方針やプログラムを作り、計画し、実行する管理機能」のことです。公共イメージ支援グループは、この3年間、非常に効果的な公共奉仕広告、「人類のために活動します」を作り上げた国際ロータリー広報部の優秀な職員たちと密接に協力してきました。この素晴らしい公共奉仕広告に取められた画像、写真、ナレーションによるメッセージは、テレビ、ラジオ、活字メディア、看板、ロータリー・クラブの資料を通じて世界の人々に伝えられ、大きな効果を発揮しています。また、使い方もとても簡単です。人々の目を引く広報材料が収録されたDVDとCDは、昨年の初めに、世界中の全ロータリー・クラブに送られました。

歴代のRI理事会は、多額の広報補助金の支給というかたちで、広報プログラムに多大な支援を寄せてきました。革新的な広報プロジェクトのために、これまでに何百万ドルもの補助金が、ロータリー・クラブと地区に支給されてきたという事実は、RIの指導者が、ロータリーの公共イメージを高めていくことの重要性を真剣に受け止めている証拠です。

ここで、世界各地からのロータリーの広報活動の最近の成功例をご紹介します。

- 日本の京都では、ロータリー・クラブが大手のタクシー会社と交渉し、200台のタクシーの後部窓に平和フェロウの申請者を募る「動く看板」を付けました。
- 台湾の台北では、「地球の清掃日(Clean the Earth Day)」に、3千人以上のロータリアン、ローターアクター、インターアクターが、ロータリーの徽章の付いたクラブのベストを着て、郊外の街の清掃を1日かけて行い、一般の人々から大変感謝されました。
- ロータリー第3810地区の、フィリピン総合病院の切断患者病棟への支援は、フィリピンでのロータリーの公共イメージを大きく高めました。

- ・ オーストラリアでは、デジタルメディアを専門とするアドストリーム社から5万ドルの後援を受けて、「人類のために活動しますIV」が、全ラジオ局と全テレビ局で無料放送されました。これにより、数百万ドルが節約されました。
- ・ ニュージーランド国内の6つのロータリー地区が協力して行っている広報活動は、効果的な広報活動の模範をロータリー世界に示しています。これらの6地区は、毎年、全6地区の広報補助金と各地区の予算を集めて、国内でロータリーへの問い合わせを受け付ける電話を設けたり、看板を設置したり、国中の映画館でロータリーのメッセージを流したりしています。
- ・ 米国、アイオワ州では、第5970地区と第6000地区の両地区が資金を出し合い、大好評となった「人類のために活動します」の画像を使って16ページの色刷りのタブロイド紙を作成しました。これによって、州内の47紙の新聞の読者である57万5千人の人々に、ロータリーの活動実績が伝えられました。
- ・ ほかに、「Bury Me in Books」と呼ばれる識字率向上プログラムのような素晴らしい例もあります。これは、アフリカ南部で実施されたプログラムで、コンテナいっぱい詰められた本を子供のいる家庭に寄贈するものです。アフリカのロータリアンと協力してこのプログラムを実施した米国のロータリアンの惜しみない支援は、生まれて初めて本を手にしたアフリカの家族の間で、ロータリーのイメージを大きく高めることになりました。
- ・ イタリアでは、ジョージ・クルーニー主演の映画「マイケル・クレイトン」がイタリア全国63の映画館で初上映された際に、10地区が合同でポリオ撲滅募金活動を実施しました。この募金活動では、9万2千部のパンフレット、2千枚のポスター、ならびに4万5千枚の小型ポスターが印刷され、ロータリーのイメージでいっぱいとなりました。
- ・ フランスでも同様に、ロータリーが百周年を迎えた年に、18地区が協力して、アクションドリームスとオペレーションシネマと呼ばれるプロジェクトで、映画の初日に募金活動を行い、脳疾患の研究のために72万ユーロ(約8千7百万円)を集めました。この募金活動も、メディアから大きな反響があり、百以上の記事が掲載されました。
- ・ 第4420地区(ブラジル)では、サントス・ジョゼ・ボニファシオ・ロータリー・クラブが、ブラジルの主要な新聞の1つ、「オ・エスタード・デ・サンパウロ」に3つの大広告を掲載し、ロータリーの公共イメージを高めました。
- ・ 2月23日に英国の国会議事堂に映し出されたメッセージ、「End Polio Now(今こそポリオ撲滅のとき)」とロータリーの徽章は、間違いなく、2008年に最も注目された広報の成功例と言えるでしょう。

おそらく、近年の国際ロータリーに最も大きな成果をもたらした新しい広報活動は、シェルターボックスではないかと思います。英国、コーンウォールのヘルストン・リザード・ロータリー・クラブの会員、トム・ヘンダーソン氏により発案されたシェルターボックスは、世界で一気に普及した災害救援プログラムです。4千5百万ドル以上を集めてきたシェルターボックスは、46カ国で6万人以上の人々を援助してきました。このシンプルなクラブプログラムによって、それまでロータリーの活動で補いきれなかった部分にも援助の手が届くようになったのです。現在、私たちは、世界のどこで自然災害が起ころうとも、迅速に対応することができます。また、一般の人々とロータリー・クラブが一緒になって、災害時に惜しみない支援を送っています。これは素晴らしい広報効果をもたらすものですが、私たちは、今後発行されるすべてのプレスリリースでもロータリーの主要な役割について紹介し続けていくよう、シェルターボックスに携わる仲間たちに求めていく必要があります。

皆さんの課題は、地区へ戻った後、これらのサクセスストーリーとロータリーの質の高い奉仕活動によってもたらされたロータリーへの注目を土台として、活動をさらに発展させていくことです。2009-10年度の広報補助金に関して、よいお知らせがあります。全言語で用意された広報補助金申請書が、広報に関する本日の分科会で皆さんに配布される予定です。広報補助金の申請書の締切日は、これまでより早い7月30日となりました。これにより、RIの広報部職員が、申請書の手続きを早めに開始できるようになり、皆さんの就任年度にできるだけ早く補助金の支給ができるようになります。しかし、広報補助金を最大限に生かすには、全地

区が適切に予算を組み、その活動の効果を高めていく必要があります。広報補助金の条件として、補助金額の3分の1を地区資金から寄付することが義務づけられていますが、これよりもっと多くの資金を寄付してはならない理由などどこにもありません。広報プロジェクトをさらに充実させるには、できる限りの寄付金を投入し、クラブにも同様にしよう呼びかけていく必要があるでしょう。現在のような変わりゆく時代において、ロータリーの会員を増やしていきたいと真剣に考えているのであれば、地区の広報活動に少なくとも1万ドルから2万ドルの予算をかけていくことが不可欠なのではないでしょうか。

中には、ロータリーは称賛を受けるために善行を行ってきたわけではないし、21世紀にもそうしてはならないと、長年、議論している人もいます。こうした人々には、現在クラブが行っているような会員増強や寄付競争が、過去にはまったく必要がなかったことを説明する必要があります。さらに、現代社会においては、すべての慈善団体にはあらゆる点で一般の人々から関心の目が向けられており、ロータリアン一人ひとりが地域社会との関係を築き、公共イメージを持続的に高めていく必要性を認識しなければならないのです。ロータリーのこれからの100年にとって、会員増強は必要不可欠なものであり、これを達成するには、健全な公共イメージを確立していくことが鍵となるのです。社会的に成功し、地域社会に関心のある市民は、地域内で成功している団体に関与したいと願うものです。

ロータリーのシニア・リーダーは、ロータリーの公共イメージが高まるにつれ、一般からロータリー財団への寄付も増えると信じています。今日の世界が直面する人道的、教育的、世界平和の課題にロータリーが取り組んでいくためには、健全に成長するロータリー財団が絶対に欠かせないのです。

ロータリーの公共イメージ活動を成功させるには、コミュニケーションが重要な役割を果たします。皆さんの任期中に、公共イメージに取り組むゾーンと地区の指導者とコミュニケーションを図り、RI広報部が作成した素晴らしいリソースを最大限にご活用ください。広報部マネージャーのデイビッド・アレクサンダーと、彼が率いるプロの職員たちが、全力で、皆さんと地区チームを支援してくれます。

RIが用意している次のようなリソースを利用することをお勧めいたします。

- あらゆる形態のメディアと看板用に作成された「人類のために活動します」の画像や動画
- RIからの多額の広報補助金
- 担当するゾーンと地域のために、効果的な公共イメージに関するセミナーを計画し、実施するRI公共イメージ・ゾーン・コーディネーター
- ロータリー・クラブのための新しい広報の行動計画
- 2月23日のロータリーの創立記念日を祝うために、これまでに地域社会の人々を交えて行われた簡単な広報プロジェクトの実例

リソースの話題から次へ移る前に、「ザ・ロータリアン」誌と26カ国語で発行されている31の地域雑誌から成るロータリー・ワールド・マガジン・プレスの重要性についても触れておく必要があります。これらの雑誌を通じて、ロータリーに対する一般の人々の知識を深めることができます。友人や職場の同僚にロータリーの雑誌を読んでもらいましょう。ロータリーについての知識を深め、ロータリーの善行を自分で伝えられるようにするために、これらの雑誌を隅々まで読むようロータリアンに呼びかけてください。

地区ガバナーである皆さんには、それぞれのご担当地域で、ロータリーの地域雑誌の制作と配布、そして購読料の徴収を支援する責務があります。ロータリーの雑誌の定期購読は、ロータリーの会員条件の一つであり、皆さんは、クラブと会員にこの義務について理解してもらわなくてはなりません。独自の資金で発行されているロータリーの雑誌を存続させていくためには、できる限り多くの購読者を維持することが極めて重要です。ロータリーのカレンダーで4月は雑誌月間とされていますが、これは、RI理事会がロータリーの公式雑誌の重要性を認識したために設けられたものです。次の休憩中に、RIメディアブースに立ち寄り、地域雑誌を支援するために任期中に必要な情報を集めてみてはいかがでしょうか。

皆さんは、間もなく広報についての討論会に移り、それぞれの経験と成功談を分かちあうことになります。この機会に、できるだけ多くのことを互いに学び合い、これからの数カ月間に地区で十分に準備を整えてください。そして、ガバナーの任期を終えるまでに、ロータリーについての一般市民の認識を高め、私たちの業績に敬意を示す人々を増やし、今後、ロータリーをもっと支援しようという声が高まるようにするのだ、という決意を固めていただきたいと思います。

私たちには伝えるべき素晴らしい話があるので、それをぜひ広めていこうではありませんか。

リーダーシップ

ルイス・ビセンテ・ジアイ
元RI会長

国際性と親睦にあふれる国際協議会は盛況のうちに、最終日を迎えることとなりました。ここでの体験はいつまでも皆さまの心に残り、忘れがたい思い出となることでしょう。2009-10年度をロータリーの歴史の中でも最高の1年にしようと、準備も万端に整い、熱意に満ちた皆さまを前に、これで前途を祝福できるという思いで胸がいっぱいです。

私たちは、来年度も、大変素晴らしいリーダーに恵まれます。そのリーダーとは、非常に優秀で誠実な上に、倫理観が強く信頼の置ける方です。また、率直で、人々をやる気にさせると同時に、自ら勤勉に働く方です。その素晴らしい真のリーダーこそ、ジョン・ケニー会長エレクトです。

皆さまは、あと数時間で、帰宅の途につき、地区の現実、クラブの現実、そしてロータリアンとしての日常の現実に立ち戻られることでしょう。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」というテーマを本当に実感できるのは、そのときです。

私がロータリアンとなって48年が経ちます。私は33歳の若さで、皆さまと同じように、国際協議会に出席いたしました。私が今、自信を持って皆さまに申し上げられるのは、これから先の経験がさまざまな意味で、何にも変えがたい特別なものであるということです。激務をこなす一方で、数々の感動とこの上ない達成感を味わうことになるでしょう。しかし、皆さまが使命を全うする時間はわずか365日で、これは二度とないチャンスです。このことを、どうかしっかりと心に刻んでおいてください。ここで、地区ガバナーとしての1年に重要なことをいくつか皆さまにお話させていただきたいと思います。

はじめに、ロータリーにおけるリーダーシップは他のいかなるリーダーシップとも異なることを理解していただきたく思います。他の団体やグループでは誰かが指令を出して、まわりの人がそれに従います。これは縦型のリーダーシップと呼ばれます。一方、ロータリーでは全員がボランティアですから、みんなが同じ船に乗っているようなものです。これは横型のリーダーシップと呼ばれます。私たちが他団体と違うのは、他者へ奉仕しようという意志があることです。それは意欲のたまものであり、人々を前進させる原動力になっています。意欲は内なる炎であります。ジョン・ガードナーはこう言っています。「世界を動かしているのは、意欲あふれる人々、情熱に満ち満ちた人々、強い目的意識を持った人またはゆるぎない信念を持つ人々だ」と。だからこそ、私たちはロータリアンを大切にしなければならないのです。彼らこそ、ロータリーを突き動かす力、すなわち人道的な動力であります。組織を一つにまとめる接合剤であり、ロータリーの発展と奉仕の鍵を握る存在です。

ロータリーで活動していくためには常に準備が必要とされることを心得てください。管理運営を成功させるには計画が欠かせません。計画を整え、それに従って行動することです。近年のガバナーは、指導者層を改善していくための新しいツールを利用することができます。具体的には、地区リーダーシップ・プランとクラブ・リーダーシップ・プラン、地区の新しい構造の提案、会員増強のための新たな支援、改良されたロータリー財団のリソース、奉仕の重点分野などです。これを活用しない手はありません。これを使って、責務を委任し、より多くの人々に管理に関与してもらい、ロータリアンの新たな才能を発掘していくべきなのです。目的地への行き方を知っている人がいち早くそこにたどり着けるのと同じです。

指導者は人との交流を大切にします。活発なクラブも、そうでないクラブもすべて、同等に扱いましょう。クラブを比較したり、非難してはなりません。一つひとつのクラブを別々の組織としてみてください。同じ家族でも子供一人一人がユニークな資質を持っているように、です。

そしてロータリアンに奉仕を奨励してください。彼らの熱意を刺激し、長所を引き出してください。各自の能力を最大限に生かせる環境を作り、未来を思い描く手助けをしてください。ロータリーはボランティア組織で

す。ロータリーの指導者は、会員一人一人に対し、感謝しなければなりません。ジョン・デューイの言葉を借りれば、「人間が最も必要とするのは、自己の重要性を確かめたいとする欲望」なのです。ですから、誰もがこの思いを満たされるようにしなくてはなりません。一人一人がかけがえのない存在ですから、平等に感謝し、評価してください。それぞれに価値があり、それぞれが奉仕を行い、誰一人たりとも欠くことはできません。みんなが団結すれば、もっと違った結果が生まれ、ロータリーは一層充実した団体となっていくでしょう。皆さまが指導者としてロータリアンの意欲を駆り立て、模範となることができるなら、奉仕に対するよりいっそうの積極性と熱意が生まれることになるでしょう。これまでのロータリーの奉仕の記録をさらに急伸させることができるか否かは、皆さまの手にかかっているのです。

ここで重要なのが、チームワークです。ロータリーのこれからの発展と成功を実現するために、皆さまがなすべきことは何でしょうか。未来は皆さまの手の中にあります。全員が、真の職業倫理を理解したチームを作ることです。ここで皆さまにご紹介し、地区で実践していただきたいのが「新幹線」のようなチームです

新幹線とは何でしょうか。ご説明いたしますと、新幹線は日本で開発された当時、ほかに匹敵するもののない速さで世界を圧倒し、一躍有名になった高速電車です。新幹線の速さの秘密は、各車両に取り付けられた小さなエンジンです。これらを合わせた動力が何よりも早く、効率的に、瞬時にスピードを発揮します。個々のモーターの力を合わせて、一斉に電車全体を動かすのが新幹線効果です。ロータリーが各車両にエンジンを備えた大きな電車であると想像してみてください。皆さまの課題は、全ロータリアンが団結して「新幹線」になること、つまり、チームワークを意識してよりよい奉仕を行っていくことです。一人は皆のために皆は一人のために働く新幹線。私たちの活動に意味を持たせ、創造的な奉仕を行う新幹線。ロータリーに非常に必要とされているこの新幹線効果を実践できれば、ロータリーには必ず明るい未来が訪れます。新幹線！新幹線！

皆さまには先見の明ある指導者になっていただきたい。これが、私からの大変特別なお願いです。ロータリーの未来を切り開いていくためには、先見性をもった指導者が必要です。先見性のある指導者とは具体的にどのような指導者でしょうか。私は、指導力以上の何かをもった人物だと思います。職業的なスキルと人間的なスキルをバランスよく兼ね備え、さらに社会的な傾向を読み取る研ぎ澄まされた目を持った人物です。このような指導者は、人々の心を動かして彼らの才能を最大限に引き出し、変化に際しては瞬時に対応し、さらに前進していく備えができています。

しかし、こうした先見の明ある指導者が、遠い未来の問題を現実となる前に予想するには、十分な知識基盤とチームの協力がなくてはなりません。この種の指導者は、人間の限界を超えて先を見通す力と決断力を持ち、反応を見守りながら、これから何が起こりうるか予測できる人です。組織がどこへ向かっているのか、また未来に何が起こるのかを知っています。

歴史の流れを変えてきたのは常にこうした先見の明ある指導者たちでした。彼らには先頭に立って人々を導くための英知と実力と勇気がありました。先見の明ある指導者は、普通の人々でありながら、きらりと光る才能と発想を持っています。一言で言うなら、彼らは卓越した人々なのです。

私から皆さまへの最後のアドバイスは、常に、ロータリーで才能溢れる人材を探すことです。私は、ロータリアンのことを知り尽くしており、彼らが何を得意としているか把握しています。私はロータリアンが信じられないほどの偉業を成し遂げるのを見てきました。子供の命を救うために腎臓を提供したり、ケニアの森の真っ只中で死の淵にある女性を救ったり、ストリートチルドレンを安全な家に保護したロータリアンもいました。大義のために分かち合い、奉仕し、何かを犠牲にしてまでも他者に尽くすロータリアンを見てきました。

これこそ、私がロータリーの人々を信頼する理由です。ロータリアンのもたらす成果には目覚ましいものがあり、ロータリー財団においては、プログラムや寄付や表彰などといったものをはるかに超えた影響力があります。ロータリーの素晴らしい特質が見事に具現化されているのがロータリー財団です。単なる才能の持ち主であれば、限られた分野でほかの人より秀でるにすぎませんが、天賦を授かった者は思ったことすべてを実現させてしまいます。

理想主義にはこの天賦がついてまわるため、理想を掲げるロータリーも、偉業を成し遂げることが可能になるのです。天賦は、ロータリー精神と同じように、肉眼で見ることができません。しかし、それは確かに存在し、原動力となり、人々の意欲を呼び覚まし、夢をかたちにし、ロータリアンもロータリアンでない人も同じく、幸せで満ち足りた人々へと変えているのです。

教育的プログラムの奨学生やフェローたちを選ぶ際には、ロータリアンの才能が発揮されます。そこで彼らに未知の扉を開けるのがロータリーの天賦です。ロータリアンの才能によって、ボランティア活動が推し進められていることは確かです。しかし、不可能が可能になるという想像を超えた世界でロータリアンたちを率いているのは、目に見えぬロータリーの天賦です。それまでわが子の姿を一度も見ることができなかった女性に白内障の手術を施したのは才能を持ったロータリアンたちですが、その女性が手術後に眼帯をはずして、初めてわが子を目にし、「ありがとう、ロータリー！私の子供たちがこれほど美しかったとは！」と感動の叫び声を上げたのはロータリーの天賦のなせるわざなのです。遠隔地にポリオのワクチンを届けるのは才能あるロータリアンたちに違いありませんが、紛争に介入して争いを停止し、子供たちが予防接種を受けられるようにするのも、やはりロータリーの天賦なのです。

だからこそ、ロータリーには、この天賦の備わった指導者が必要なのです。先見の明と進歩的な考えと的確な判断力を持ち、会員の才能を生かす準備のできている、指導者です。私たちの心を動かすロータリーの天賦をさらに高めることのできる、そんな指導者が必要なのです。

朋友ロータリアンの皆さま、これは皆さまの仕事となります。ロータリーの未来を皆さまに託すにあたり、私は一人一人に厚い信頼を寄せています。その信頼があるからこそ、本日の私のメッセージは大変楽観的で自信に満ちています。奉仕にあたって、ロータリーとロータリー財団には大変価値あるリソースがあります。分け与えられないほど貧しい人はいなければ、受け取れないほど豊かな人もいません。このことを銘記しておいてください。

最後に、私たちの財団のために活動し、支援すると同時に、自らが楽しんで活動に当たっていただければと思います。人を大切にしながら、導き、励まし、真のリーダーを育てるように努めてください。そして来年度を人生で一番の年となるようにしてください。

これからやってくる課題は、ロータリーとロータリアンに何ができるかを実証する試練の一つにすぎません。全身全霊で活動に当たってください。自分の心に従うことが成功の秘訣です。人の心に鍵はありません。なぜなら心は内側からしか開かないからです。ですから皆さまの使命は、他人が心を開いてくれるように働きかけることです。

激しい吹雪の夜、山小屋の入り口で誰かがベルを鳴らしました。山小屋の管理人がドアを開けると、疲れ果てた様子の老人が入ってきてそそくさと腰掛けるやいなや、スープをくれないかと言いました。管理人は老人にスープを出しながら、こう尋ねました。「こんなに高い山に、しかもこんな悪天候の中、あなたのような高齢の方が一体どうやって登ってこれたのですか」スープを一口、二口すすると老人は答えました。「何も特別なことはない。自分の目の前のことに心を集中させるだけ。体は後から簡単についてくる」

皆さま、個人的な雑務をこなすときには頭を使う必要があります。しかし、ロータリアンを率いるときには、心が大切です。経験や知識を提供し、他の人々がそれぞれの道を見い出せるまで、後に続けるような道をつくる、先見性ある指導者となってください。それぞれの違いを尊重し、弱点を補い、そして強みを生かせる、先見の明ある指導者になってください。自らの責務を心得え、「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あることを理解して惜しみない努力を傾けられる指導者になってください。

これからも末永く、皆さまの成功をお祈りしております。

閉会の挨拶

李 東建
RI会長

皆さんと分かちあいたい話があります。1年前、私が会長エレクトとして次期ガバナーに話したもので、すでにご存知の方もいらっしゃると思いますが、すべてのロータリアンに気づきをもたらす話であると信じ、繰り返させていただきます。

ある朝、一人の老人が海辺を散歩していました。ずっと先に、一人の幼い少女が踊っているような姿が見えました。さらに近づいていくと、どうやら少女は踊っているのではなく、なんと、ヒトデを一匹ずつ拾い上げては、海の中に投げ入れていたのです。老人は、少女に向かって尋ねました。「何をしているのかね」と。

少女は答えました。「ヒトデを海に返してあげているのよ。潮が引いてきたから、このままにしておいたら死んでしまうわ」

老人が浜辺を見渡すと、そこは一面ヒトデで覆われていました。

「しかし、ヒトデは数え切れないほどいるし、浜辺は何キロもある。おまけに潮はものすごい勢いで引いている。君一人で一体何ができるというのかね。無駄なことだとは思わんか。ヒトデを助けるなんて無理な話なんじゃ」 老人はそう言い聞かせました。

しかし、老人が話している間も、少女は一匹ずつヒトデを拾っては投げ入れ、拾っては投げ入れるという動作を繰り返していました。老人が話し終えると、少女はしゃんと背筋を伸ばすと、もう一匹のヒトデを海に投げ入れ、老人に向かって微笑みながらこう言ったのです。「ほら、私はあのヒトデを助けることができたわ」

そのとき老人は、少女が大切なことを自分に教えてくれたのだと気づきました。

途方もなく大きな仕事を目の前にしたとき、始められる場所は唯一私たちが現在立っているところしかありません。

私たちの助けを必要としている人々は数知れず、世界には飢えと病と非識字の問題がひしめいています。すべての人々を助けることができないのは承知しています。しかし、だからといってただ手をこまぬいているわけにはいきません。まずは始めなければならない。たった今、始めなければならないのです。

韓国には「一日先延ばしにすれば、十日が経ってしまう」ということわざがあります。私の経験からも申し上げますが、これからの数か月はあっという間に過ぎ去ってしまいます。7月1日はまだ先のことと思っても、新しい仕事を開始する日はすぐにやってきます。皆さんは地区を導き、ベストを尽くしてください。なぜなら、「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あるからです。

ケニー会長エレクトは、ロータリーが行ってきたよいことを続け、104年の歳月を誇る親睦と奉仕の伝統を守っていくよう、皆さんに求めておられます。また、世界中の人々の生活改善に向けて、水、保健と飢餓、識字率向上の分野における取り組みを継続していくよう、お願いしておられます。このような仕事を担っていくからこそ、私たちはロータリアンであると言えるのです。私たちは、人の力になりたいと願い、そして力になれるからこそ、ここに集まっているのです。

ロータリーでは、単純明快な計算の下に活動の方向性を決めます。すなわち、持てるリソースを考慮した上で、長期的に最も多くの善を達成できる道を選びます。リソースを公平に分配することに努めると同時に、どうすればそれを最大限に生かすことができるかをじっくりと考えるのです。そして、私たちは昨年度よりも今年度と、毎年さらなる向上に努めています。

国際協議会は、毎年、同じではありません。それぞれが、感動にあふれ素晴らしいものです。どの協議会も、ロータリーの最大の力と可能性に満ちたビジョンを感じさせてくれます。自分たちの可能性に目覚め、何がなせるかは自分次第であると気づくのが、この協議会なのです。

就任までの数か月間、それぞれのクラブにおいて全力を尽くしてくださるよう、お願いいたします。このロータリー年度をどのようにしめくくるかによって、皆さんの年度の始まりが決まってくるからです。また、ロータリーの仕事に携わる活動の担い手が増えるよう、新会員の勧誘にも最大限の力を注いでいただきたいのです。そして、ここサンディエゴで分かち合った熱意と感動を、どうかクラブと地区に持ち帰ってください。今ロータリー年度、私たちはすでに多くを成し遂げましたが、これからもさらに多くのことができるはずで

無駄にする時間などありません。膨大なニーズを前にしながら、私たちの時間には限りがあります。ビル・ボイドRI元会長はおっしゃいました。「たとえ完璧な世界を築くことができなくても、だからといって努力を怠ってよいということにはならない。現在住んでいる世界より、もっとよい世界を後世に残すことができたなら、私たちは成功したと言えるでしょう」

今後も引き続き「夢をかたちに」してくださるよう、皆さん一人ひとりをお願い申し上げます。なぜなら、「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あるからです。

閉会の辞

ジョン・ケニー
RI会長エレクト

一週間の親睦と発見の旅が終わりを告げようとしています。私たちはまもなく、それぞれの場所へと帰っていきます。車や飛行機に乗り、自宅、そして所属クラブに戻り、再び知り尽くした環境に帰ります。留守にしたのはわずか一週間余りですが、見慣れたはずの風景が違って見えるようになります。それはこの場所で、私たち一人一人が変わるからです。

私たちは、驚くべきロータリーの力と可能性を体得しました。世界中のいたるところでロータリーが多くを成し遂げ続けていることを実感しました。またそれにも増して、ロータリーがやらなければならない残された仕事がたくさんあることを学びました。目の前に積まれた仕事がいかに重要なものであるかを知り、私たちの決断が人の生死をも左右するものであることを理解し始めました。ロータリーでの役職は大きな責任を伴うものであり、ロータリーの指導者は誰一人として、この責務を軽く受け止めるべきではありません。

ここで、死の床にある司教の看護に数週間当たっていた若い神父の話をさせていただきます。最期の日が迫ったとき、その神父は、神と自分の教区によく仕える励みとなるような祈りの言葉を司教に乞いました。司教は「あなたが、教会にやってくる信徒に対して神を敬うと同じほどの崇敬の念を常に抱くことができるよう祈ろう」と言いました。神父は驚きました。信徒よりも神こそをもっと敬うべきではないのかと。しかし、司教は、個人としてあるときも、常に信徒を前にしたときと同じように振舞えるよう祈ってくれたのだということにやがて神父は気づきました。それは、神の御前で下せない決意を、信徒の前で下してはならないという戒めでした。私たちは、自分自身に要求しないことを他人に求めるわけにはいきません。指導者となるに伴う責務を担うとき、私たちは同時に、いかなるときもあらゆる面において、就いた職務にふさわしい人物となるよう努める責務も担います。

ロータリーのリーダーシップは、ロータリーの奉仕と未来のために自らを捧げ、自分の行動と決意に対する責務を担うところから始まるのです。ロータリーのピンを初めて襟につけたときから、私たちは出会う人々すべてにとってロータリーの顔となってきました。クラブで、職場で、地域社会で、家庭で、私たちが行うこと、話すことのすべてが、私たち全員に影響を及ぼし、未来を形づくっていきます。私たちがロータリーを誇りに思うのは当然のことです。ロータリーは誇りとするに値する存在です。私たちは、実に多くを成し遂げてきましたし、これからもさらに多くを成し遂げていくでしょう。

数カ月前から、私はこの瞬間について真剣に考えをめぐらせてきました。この国際協議会で、皆さんの前で話す最後の機会に、どのような言葉を選ぶべきか。旅路に向かう前のはなむけとして、皆さんの意欲を喚起し、共感を呼び覚まし、前向きな姿勢と希望とをもっていただくと同時に任務の重大さを自覚していただくには、どんな言葉を贈るべきか、と考えをこらしてきました。

朋友の皆さん、繰り返しになりますが、私から申し上げられることは、「ロータリーの未来はあなたの手の中に」ある、ということに尽きます。

私たちは今、ロータリーの歴史の岐路に立っています。ポリオのない世界を実現するまであと一步というところまで来ました。私たちには、ロータリーが20年以上も前にスタートした仕事を完遂できるよう、力になる機会が、私たちには与えられています。私たちは現実的に物事を考え、なすべき仕事はまだたくさんあることを承知しています。しかし、私たちには忍耐と粘り強さがあります。私たちのなすことが末永く多くの人々に影響を与えていくことを知っています。

ポリオ常在国が残すところわずか4カ国となり、年間のポリオ感染例が99パーセント減少したという成果は、私たちと先達の努力の賜物です。今週、ゲイツご夫妻ならびにゲイツ財団からさらなる信頼が託され、私たちは、さらに目標達成に近づいたことを実感しました。この新しい補助金と、それに先立つ補助金は、私たちへの声援です。「ポリオは撲滅できる」という力強いメッセージを届けるものです。この補助金は、ロータリアンが、なすべきこと、いったん始めたことを必ずや成し遂げる人々として世界中から信頼される存在であることを物語っています。

今ロータリー年度、私たちがなぜここにいるのか、そしてなぜロータリアンであるのかを決して忘れないよう、お願いいたします。私たちがロータリアンであるのは、知性と固い意志をもった人々が手を取り合えば多くをなし得ると知っているからです。私たちがロータリアンであるのは、超我の奉仕を信ずればこそです。そして、なさねばならないことに果敢に取り組んでいくのがロータリアンです。水、保健と飢餓、識字率向上は、私たちが取り組まなければならない課題です。これらのニーズは、毎年、世界中で絶えることはありません。

ロータリアンとして私たちに何ができるかによって、多くのことが変わってきます。皆さんによって、多くのことが変わってきます。「ロータリーの未来はあなたの手の中に」あるのです。

奉仕のパートナー

セリア・クルズ・デ・ジアイ 元地区ガバナー

皆さまとともに国際協議会に参加できることを大変嬉しく思います。また、私にとって大変重要な話題を本日皆さまにお話する機会をくださったジョン・ケニー会長エレクトとジューン夫人にお礼申し上げます。

私はこの国際協議会で皆さまがまたとない特別な経験をされるよう願っております。私たちはそれぞれの文化や世界観、そして夢やプロジェクトを分かちあうために、ここに集まってまいりました。私たちの多様性は、成長と結束を育むものです。この協議会は友情と奉仕の精神が行き交う、言うならば大々的な社交と文化交流の場ですから、お互いから多くを学ぶことができるでしょう。ここでは、同じ言語を話さなくても、笑顔と握手で友好を示すことができます。

本会議や討論グループ、親睦行事では、同じ国籍、言語、信条を持たない人とも、アイデアや経験を分かち合う機会があります。この機会を通じて、自らの経験、知識、才能、リソースを恵まれない人々に分け与えたいと願う気持ちはみな同じであることを実感されることでしょう。

皆さまがこれから数日のうちに学ぶことは、人生で末永く大切にしていられることです。それは、ロータリーの一員であることが名誉以上のものである、ということです。104年を超える歴史の中で培われた豊かな遺産は、私たちの掌中にあります。この遺産を大切に守り、強化し、発展させていくのは私たちの責務です。この責務をまっとうできたなら、次の世代に安心してこの遺産を引き継ぐことができます。

皆さまの配偶者がここに集まっておられるのは、彼らが信頼と尊敬の念を集めた、ロータリーの真のリーダーであるためです。献身的に、懸命に活動に打ち込んできた結果、来年度、地区を率いる人物として選ばれたのです。その活躍の背景には、配偶者の皆さまが大きな役割を果たされたことと思います。その意味で、皆さまにもお祝いを申し上げます。

地区ガバナーの配偶者となるのは名誉なことであると同時に、重大な責任も伴います。まずは、自分がどのような配偶者になりたいのか、またなれるのかを考えてみる必要があると思われれます。地区の活動に完全に没頭することになるでしょうか。それとも活動を選んだ上で参加することになるでしょうか。あるいは、仕事や家族を優先させなければならなかったり、個人的な都合から、地区ガバナーが設定した奉仕目標を達成するために、時折、手を貸す程度となるでしょうか。いずれにしても、皆さまの関与や参加は、ご自身にゆだねられており、全く個人的な選択です。しかし「チームワークで力を発揮」し、夫婦で協力すれば成功がもっと身近なものになるはずだということを、どうか心に留めておいていただきたいのです。

これから、皆さまに何が求められているかについてお話ししましょう。

第一に、ロータリーについてよく知っておくことです。知は力なり、知識があれば、ロータリーの理想を広め、自分なりのイメージを描いて、ガバナーのリーダーシップを補強することができます。昔からあることわざに「No one loves the unknown (知らないことは好きにはなれない)」というのがあります。ですから、ロータリーとロータリーのプログラムで提供される奉仕の機会について学び、知り、発見してください。私たちの所属するロータリーという組織は世界各地で大変素晴らしい奉仕を行っており、世界中の指導者や各国政府の信望を集めていることを周りの人々にも知らせてください。

第二に、参加することです。地区内のロータリアンの配偶者と会って、それぞれのプロジェクトや問題、必要なことや達成したことについて学んでください。そして参加が重要であること、またチームワークが必要であることをしっかり理解してもらうようにしてください。

第三に、ロータリー家族を大切にすることです。地区の行事に自分の家族を招きましょう。優れた活動を行うには家族が最も頼りになるからです。配偶者、インターアクター、ローターアクターにも、ロータリアンの奉仕プロジェクトに参加するよう呼びかけ、ロータリーの親善の精神からより多くの人が恩恵を受けられるようにしてください。

第四に、何をすることも最善を尽くすことです。最も良い結果は、期待以上のことを行い、リスクを受け入れ、誰もが叶わないと言う夢を夢みることから生まれます。

第五に、人に意欲を与えること。明確で力強く、共感を呼ぶような態度、価値観、信念を持つべきです。皆さんが強い熱意を込めれば、その力と託された希望に人々が心を動かされます。私たちのようなボランティア組織では、人が心を打たれたときに驚くべき偉業が達成されます。意欲は、ロータリーの会員が行動する推進力であり、物事がどんなに困難であっても、正しいことを行い、目標の達成に必要なもう一押しを引き出してくれるものです。

人は模範に倣って意欲を高めます。孔子は、「先ずその言を行い、而して後にこれに従う」と言いました。自分の気が進まないことを他の人にお願いはできません。まずは自分が時間を割かなければ、ほかの人に時間をとってもらうことはできません。自分が貢献しなければ、ほかの人に貢献は頼めません。自分が先に参加しなければ、他の人の参加は望めません。模範を示すことは大変重要です。皆さんが心構えをして、進んで参加する必要があります。

意欲というのは、人に認められてもらうことでも高まるものです。生存本能の次に強いとされる意欲は、仕事をよく成し遂げたという達成感から得られるそうです。やる気のある人々は、目標を達成するために頭と心と体とを駆使して活動に取り組みます。夢が叶うと確信すれば、山をも動かすことができます。ですから、ロータリー家族が一人一倍の努力を傾けているのを目にしたら、彼らを評価し、感謝の意を表すようにしてください。それが一人一人のボランティアの熱意を保つのに極めて重要です。

出会う人すべての意欲を高めるのが皆さまの使命です。ロータリーに関係する人々がもっと効果的に活動できるよう、意欲を喚起しましょう。また、ロータリー以外の人々に入会を勧めて、ロータリーを発展させ、公共の福利のために働き、奉仕できるようにしましょう。

ガバナーに就任していた夫に連れ立って先々を訪れた経験が、私の人生の転機となりました。自分たちのクラブの外へ出て、他クラブを訪問し、地区内のほかのロータリアンたちと出会うことができたからです。私はそこで、ロータリアンによる素晴らしい活動に感謝するようになりました。まずは住民の中に入ってその苦労を味わい知り、彼らの大義に共感することなしに、地域社会のリーダーとなることはできないのだと理解しました。目標を達成するには、奉仕する相手に全霊で共感しなければならないのだと、理解するようになりました。

置かれている状況ゆえに、周辺の問題を理解できないという場合も多々あります。「飢餓」という言葉を何度となく耳にしてきましたが、果たして、私たちはその本当の意味を理解しているでしょうか。ある日、空腹がどのようなものかを体感するため、私は3日間何も口にしないと決めましたが、2日も持ちませんでした。世の中には空腹で、生涯、栄養失調の人々がいます。飢餓とは何か、彼らに尋ねてみてください。

最近、あるロータリアンとその夫人に出会いました。ご夫婦そろって、むっつりとして、笑顔のひとつもない、まるでロボットのような表情でした。後に、息子さんが薬物中毒であることを知らされました。薬物中毒とは何か、こうした人々に尋ねてみてください。

私の親友の年老いた母親は一人暮らしをしており、階段から落ちて、床に倒れたまま、24時間も誰も助けに来てくれませんでした。孤独とは何か、この女性に尋ねてみてください。

こうした人々のことを思うとき、誰でも同じような状況に置かれる可能性があるのに気づきます。配偶者の皆さま、だからこそ、人々のために奉仕するガバナーや地区のほかのロータリアンを助けたいと願うなら、皆さまの参加が不可欠なのです。ひとたび参加すれば、皆さま自身の意欲が高まり、出会う人々の意欲にもうまく火をつけられるようになるでしょう。そして皆さま自身が、より良い奉仕を提供し、奉仕の機会を増やすために、貢献することになるのです。

私は夫がガバナーに就任中、活動を共にするという素晴らしい体験に恵まれましたが、皆さまも私と同じような体験をされることでしょう。そこで私は、国際的な青少年交換プログラムに参加する若者たちを快く自宅に迎え入れてくださった多くのロータリアンと配偶者と出会いました。お年寄りを訪ねて音楽を演奏し歌を歌い、元気づけるインターアクターやローターアクターもいました。学校、病院、図書館、コミュニティセンターで活動するロータリアンや、財政的な援助が提供される場面にも遭遇しました。それぞれの村や町で、ロータリーの見事な活動を見てきました。真の幸福は人々を助けることにあると悟った私は、奉仕したいという気持ちがますます強くなりました。

この素晴らしい組織の一員となる話をもちかけられたとき、二つ返事でこれを受け入れたのはこういった理由があったからです。今では、善意に溢れる人々と一緒に奉仕ができること、また自分が人生で恵まれた分の幸運や成功に恩返しができることを誇りに思います。そして、私の夫、ルイスの奉仕のパートナーであり続けられることを何よりも誇りに思います。

私が敬慕する2人の女性の言葉を引用してスピーチの締めくくりとしたいと思います。コルカタのマザーテレサはこう言いました。「私たちが死んで神の審判を受けるとき、神は、人生でいくつよい事をしたか、とは尋ねないでしょう。むしろ、あなたは自分のやることにどれだけ愛を込めたか、と問うでしょう」

そして私が人生のお手本とする母の言葉です。私がまだ若かった頃、いつも忘れないようにと言って教えられたのが、「自分の最高のものを人にあげなさい。そうすれば、最高のお返しを受けられる」という言葉です。

親愛なる友人の皆さま、すべての行いに愛を込めて、そして自分の持てる限り最高のものを人に提供すれば、また自分の才能と技能を生かして参加するという「贈り物」を配偶者にあげることができたら、人生で最高の経験の一つを共に味わうことができるでしょう。

皆さまの幸運をお祈りしています。また、いつも皆さまに神のご加護がありますように。

繁栄への懸け橋

ファリー・モイニ

ラ・ホヤ・ゴールデン・トライアングル・ロータリー・クラブ(米国)

私は、イランの中流階級のごく一般的な家庭に生まれました。教育熱心な両親のおかげで、私も3人の姉妹も2人の兄弟も、みな大学に進学することができました。私は、テヘラン大学を卒業し、看護学の学位を取得しました。

私は、1979年にイスラム革命が勃発するまで、イランで看護師として働いた後、アラブ首長国連邦に赴き、ドバイにあるイラン病院の看護病棟の主任となることを志願しました。そこで数年間勤務しましたが、宗教的過激派の抑圧から逃れるために、米国に移住することを決意し、1984年に米国市民となりました。

私は、友人が経営する特別衣料品の事業を手伝っていましたが、後に、サンディエゴにある支店の2店を買いました。生活は順調でしたが、何かが欠けているような気がしていました。そう感じる日々を過ごしていた1999年12月のある日、敬愛する友人がロータリーを紹介してくれたのです。現在私が所属する、ここサンディエゴのラ・ホヤ・ゴールデン・トライアングル・ロータリー・クラブの例会に初めて出席したときのことは、今でも忘れられません。私はすぐにクラブになじみました。それからというもの私の人生は大きく変わり、今では、毎朝、目覚めると、クラブに参加して多くを学び、さまざまな面で成長していけると思うとうれしくてたまりません。

しかし、最も大きな変化は、これまでずっと自問してきた1つの問いに対する答えが出たことです。「私はなぜ生まれてきたのか、何のためにここに存在しているのか」という問いでしたが、同じ問いを抱かれている方も多いのではないのでしょうか。

私たちがこの地球に生まれてきたことには、必ず理由があると私は信じています。その理由は、探そうとするならきっと見つかるはずです。私の場合は皮肉にも、何千人もの罪のない人々の命を奪ったあの2001年9月11日の悲劇から、自分の存在理由と人生に対する情熱を学んだのです。

9月11日の悲劇のすぐ後、私は、幼い娘を抱えたアフガニスタンの女性の姿をテレビで見ました。名も知らないこの母と子が、私の心を動かしたのです。彼女たちの話す言語を理解できた私の胸に、絶望感がひしひしと伝わってきました。この親子の苦難を知ったことが、現在私が歩んでいる道を選ぶきっかけとなり、想像もしていなかった人生の旅の始まりとなったのです。

2002年の初め、私のヒーローであり、先輩であり、また良き指導者でもあるロータリアンのスティーブ・ブラウン氏の支援の下、パキスタン、ペシャワール近くの2つの難民キャンプで活動するために、私はパキスタンとアフガニスタンの国境に向かっていました。ロータリーに入ると、世界中にいるロータリアンの大家族の一員になれると多くのロータリアンから聞いていましたが、そのことが本当に理解できたのは、パキスタンを訪問し、ロータリアンのザマルド・シャー氏一家とともに生活したときのことでした。シャー氏と彼の家族は、私が難民キャンプでボランティア活動をしていた2カ月間ずっと私を温かくもてなしてくれました。

私が活動していたキャンプの産婦人科診療所の状態といったらそれはひどいものでした。暖房施設、温水、下水溝はおろか、幼児用ベッドも適切な分娩台さえありません。夜勤を担当した日の夜中の3時に、お産の始まった妊婦が診療所に運ばれてきました。分娩台には足台がなかったため、分娩中、母親は自分で自分の足を支えなければなりません。医師が使っていた手袋は、米国で調理用に使われている手袋と同種類のものでした。しかし最悪の事態は、分娩中に停電が起り、懐中電灯を使って赤ちゃんを取り出さなければならなかったことです。温水器などありませんから、真冬にもかかわらず、赤ちゃんをお湯で洗ってあげることもできませんでした。

ひとまずすべてが無事にすみましたが、このような劣悪な状況を目の当たりにした私は、絶望的な気持ちでいっぱいでした。翌日、私は、自分のロータリー・クラブにEメールを送信し、発電機を購入するために700ドルを集めてほしいと頼みました。なんとそれから1週間もたたないうちに、クラブの会員から7,000ドルが送られてきたのです。本当に感激でした。ロータリアンからの惜しみない寄付のおかげで、私は、温水器、分娩台、発電機、下水道の修復や建設用の資材、トイレ、食器棚、小児科診療所のための薬、孤児院に送るための1年分の食糧を購入することができました。

パキスタン滞在中の深い思い出の一つは、難民キャンプで、昨年度に国際ロータリーの会長を務められたウィルフリッド・ウィルキンソン氏にお会いし、アフガニスタンの国境近くのもう一つの難民キャンプの訪問に同行させていただいたことです。

米国に帰国すると同時に私は、アフガニスタンに戻ってきた難民の子供たちのために学校を建てるというアイデアをクラブに提案しました。戦争で荒廃したアフガニスタンには、学校がほとんど残っていません。アフガニスタンでの学校建設のアイデアについて、最初は難色を示していたブラウン氏ですが、説得の末、熱心に協力してくれるようになり、またサンディエゴ地域の多くのロータリアンから寄せられた支援と激励のおかげもあり、活動を着手するのに十分な資金が集まりました。これでアフガニスタンに向けて出発する準備が整いました。

2002年11月、ブラウン氏とアフガニスタン系アメリカ人のフローラン・ワリ氏と私の3人は、アフガニスタンに向けて出発しました。私たちは、同じクラブに所属する献身的なロータリアン、リック・クラーク氏が設計した学校の設計図を持って行きました。まずパキスタンのベシヤワルに到着した私たちは、以前の活動を通じて親しくなったパキスタンのロータリアン数名に会いました。そこから、カイバル峠を車で越えて、ジャララバードに到着しました。いよいよアフガニスタンでの活動が始まります。

アフガニスタンに到着してすぐ、私たちは、学校建設の承認を得るために、カブール州知事や各省庁の役人多数と何度か会合を持ちました。私たちの計画は承認され、教育省から支持されました。知事や地元の長老も学校建設の開始を喜んでくれました。建設された学校には、20室の教室、コンピューターセンター、実験室、図書室のほか、地域社会の人々の集会にも使える多目的ホールがあります。

私たちは、2004年3月に行われた開校式に出席しました。この日の記憶は、私の心に永遠に残ることでしょう。これまでテントの中で学習していた子供たちが、完成したばかりの校舎の前に立ち並ぶ姿は、一生忘れることのない光景です。

現在、私たちが建てた学校には、小学生から高校生までの1,200人の女子生徒と2,300人の男子生徒の計3,500人が通っています。これまでに、6年生以上の女子生徒が通学していなかった時期がありました。この理由が女性教師の不足であるということを知りました。アフガニスタンでは、6年生以上の女子生徒を男性教師が教えるということに、女子生徒もその家族も抵抗を感じるという根強い風潮があるので、それを知った私たちは、女性教師を8人増やし、一人につき650ドルの年間給与を支払うことにしました。現在この学校には、アフガニスタン政府が雇った5人の女性教師と、私たちが雇った8人の計13人の女性教師がいます。これで、学校に通う少女の数が増え、女子生徒は、高学年になっても勉強を続けられるようになりました。

この学校建設を皮切りに、私たちはさらに活動を展開していくことになりました。2002年には、ジャララバードにあるナンガルハール大学を訪問しました。この大学は、アフガニスタンで2番目に大きな大学で、およそ4千人の学生と250人の教授がいます。このときの訪問がきっかけで、私たちはこの地域で次のロータリープロジェクトを実施することになりました。同大学の学長と各学部の学部長は、同大学が世界から完全に孤立していると訴え、私たちに支援を求めました。当時、この大学には、電話やコンピューターといった通信システムがまったくなく、ソ連侵攻時代の非常に古い講義ノートを使って教えていました。

2004年3月には、インターネットが利用できるコンピューターセンターをこの大学に設置しました。これは、この大学にとって画期的なことでした。クリック一つで、世界とつながるようになったのです。私たちは、ほんの短期間で、大きな変化をもたらすことができることを実感しました。ロータリアンでサンディエゴ州立大学に勤めるスティーブ・スペンサー氏が、スティーブ・ブラウン氏とともに、アフガニスタンの教授と生徒にコンピューターの使い方を研修指導しました。数日間の研修後、スペンサー氏が「それでは今から、コンピューターウイルスについてお話ししましょう」と言うと、教授の一人が、そのウイルスに効くかもしれない抗生物質が家にある、と伝えました。なんと笑えるエピソードですが、その3カ月後、同じ教授が私たちに連絡してきました。彼は、自分の初期の出版物で、テヘラン大学から発行したされたものをインターネットで見つけたと言うのです。それだけでなく、補助金に申請したところ、新しく獣医学部を設立するための30万ドルを獲得できたという朗報も伝えられました。素晴らしいお話だと思いませんか。

私たちの全般的な目標は、ナンガルハール大学で高等教育を推進し、女子学生の数を増やしていくことです。メインキャンパスにいる4千人の学生のうち、女子学生はたったの20人しかいません。

この目標を達成するために、これまで私たちはナンガルハール大学で多くのことを実現してきました。スティーブ・ブラウン氏にちなんで名付けられた国際学習センター、客員教授のための小さな宿舎、医学部のためのインターネット衛星施設、インターネットへの接続が可能なメインキャンパスのコンピューター室、図書室の付いた女子学生用の寮、コンピューターセンター、食堂と調理室の建設などがその例です。

また、世界銀行、アフガニスタン高等教育省、ナンガルハール大学、ならびにサンディエゴ州立大学の代表者との会合と私たちのさらなる努力によって、2つの大学間で提携関係を結ぶための4百万ドルの補助金を確保することができました。この提携関係は、ナンガルハール大学に英語教育プログラムと土木工学プログラムを設置することを目的とするものです。この結果、去る夏には、アフガニスタンの英語学教授と工学部の教授数名が、ここサンディエゴで開かれた学会に出席することとなりました。また、ロータリー財団の援助、ならびにミシガン州の1地区とサンディエゴ大学からの惜しみない支援の下、ナンガルハール大学の英語学部からさらに、2人の教授が招かれ、彼らは第二言語としての英語教授法に重点を置いた修士課程で学びました。

さらに2005年5月には、ロータリーの研究グループ交換プログラムの下、ナンガルハール大学の6名の教授をサンディエゴに1カ月間招くことができました。

私たちはまた、アメリカ合衆国国務省のグローバルコネクションズ・アンド・エクスチェンジプログラムを通じて、15万ドルの補助金を確保しました。この補助金は、テクノロジーを駆使して、サンディエゴの6校とジャララバードの全高等学校15校の生徒とのネットワークを築くために使用されます。私たちは、このプログラムを通じて、また研究グループ交換と奨学金などのロータリープログラムも併用して、アフガニスタンの高校教師と大学教授の14人ほどを、今後12カ月間に私たちのロータリー地区に招きたいと思っています。このほかにも、私たちは、1万2千冊の英語の辞書をアフガニスタンに送りました。これらの辞書は、ナンガルハール大学とそのほかのアフガニスタンの学校に届けられました。

過去7年間に、私たちは、教育面だけでなく、医療面やその他全般的にもナンガルハール州の人々に援助を送ることができました。私たちは、ナンガルハール公立病院にインターネットシステムを設置し、超音波装置を2台送り、ナンガルハール大学病院には、小児科用の機器を購入しました。さらに、卸売り価格にして250万ドル分に相当する薬をジャララバードに送るために手配したほか、ナンガルハール州のマイクロクレジットプロジェクトに資金援助を行ったりしました。私たちは、テクノロジーを活用して、ゆくゆくはアフガニスタンとその他の国々の間で、医療や公衆衛生の分野に携わる専門家のネットワークを構築していきたいと思っています。

私たちはまた、ジャララバード・ロータリー・クラブのスポンサー・クラブとなったり、カブール、ロガル、ヘラートのロータリー・クラブへ継続的な援助を送ったりして、アフガニスタンのロータリー・クラブとの関係を築き、これを強化してきました。また、サンディエゴとジャララバードは姉妹都市となりましたが、この関係構築に協力できたこともうれしく思っています。2004年、私たちは、ジャララバード市長をサンディエゴに招き、サンディエゴ市長と引き合わせました。

現在はまだ立案過程にありますが、私たちは次の活動として、多くの村落とジャララバード市とを結ぶ1つの橋をカブール川の上に架けることを予定しています。橋の建設によって、子供たちは学校に通えるようになり、村人全員が医療施設を利用できるようになります。この活動に協力しているのは、「ザ・ロータリアン」誌の8月号で紹介された「Bridges to Prosperity (繁栄への懸け橋)」と呼ばれる団体です。

エレンア・ルーズベルトは次のように言いました。「平和について語るだけでは十分でない。平和を信じなければいけない。そして信じるだけでは十分でない。平和に取り組まなくてはならない」

私は、自分がロータリアンとなれたことを深く感謝しています。それは、ロータリアンには、ボランティアとして積極的に活動し、世界に変化をもたらすチャンスが与えられているからです。私たちは、世界中の多くの人々の生活を変えています。私たちの究極の目標は平和と理解の構築ですが、これを達成する唯一の方法は、人々とじかに触れ合うプロジェクトを通じて、私たちが彼らの気持ちを理解し、彼らのことを思っているのだと伝えていくことです。お金、食糧、薬を送るだけでは十分ではありません。彼らは私たちを必要としています。ここにいる皆さんと私が、彼らの下に直接行き、魚の釣り方を教えたり、人間としての尊厳と価値を高めていかなければならないのです。笑顔や抱擁一つで、希望を与え、友情を築いていくことができるのです。

マザー・テレサは言いました。「私たちは大きなことはできません。小さなことを大きな愛でするだけです」と。

私の人生の旅を皆さまと分かち合う機会を与えてくださったことに、心から感謝申し上げます。皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

貧困を知ろう、一人ずつこどもの生活を変えていこう

ディーパ・ウィリングム

地区ガバナー・ノミニー / PACEインターナショナル創設者

本日は、私が成就した夢、すなわち、教育という贈り物に恩返しをするという私の夢について皆さまにお話しする機会を与えてくださったジョン・ケニー会長とジューン夫人に、心からお礼を申し上げます。

まずは、シャンティという幼い女の子のお話から始めたいと思います（スライドが始まる）。これは、シャンティが母親と一緒に初めて私たちの学校を訪れた日に撮った写真です。おどおどとして暗い表情で、これから何が起こるのか不安そうです。次の写真は彼女を3カ月後に撮影したものです。生き生きとして、子供らしい笑顔が見られます。

不幸にも、この幸せそうな写真が撮られたわずか2週間後の週末、街で仕事をするために母親がシャンティと3歳の弟を残して家を離れている間に、近所の池に落ちた弟を助けようと、シャンティは後を追って池に飛び込みました。村人も助けに入りましたが、かろうじて小さな男の子を救出できた一方、シャンティを救い出すことはできませんでした。

その日、学校から離れたところで、シャンティは、子供の死亡率統計の一人に加わりました。これは李東建会長エレクトが熱心に話されたあの統計です。現在の統計では、予防できるはずの原因で、毎日、2万6千人の子供たちが命を失っています。

なぜこれほど多くの子供たちが毎日亡くなっているのか、考えなければなりません。答えはいつも同じ、すなわち、亡くなっていく子供たちの多くが貧困層の子供たちだということです。ここで、この問題を理解する上で特に重要な引用を皆さまにご紹介します。「貧困を容認することは、人類で最悪の暴力だ」という言葉を残したガンジーは正しかったと思います。

貧困。貧困とは何でしょうか。例えば、アメリカの貧困とアフリカの貧困は同じではありません。一般に、3つの広義の分類が使われています。極度の貧困、中度の貧困、相対的貧困です。

分かりやすいように3つの分類を図に表してみました。平たい丸が社会を示し、はしごは人々が次のレベルに到達するために必要なステップを表すとします。この丸（社会）が提供するサービスや基本的ニーズへの対応が少なければ少ないほど、はしごは狭くなります。すなわち、はしごを登ることはおろか、最初の段にさえ足が届かないということです。ここで、はしごが狭くなるだけでなく、はしごの段数も増えることにご注意ください。つまり、登るのが難しくなってしまうのです。

では、極度の貧困の定義はどのようなものでしょうか。それは、一日1ドルか2ドル未満で生活している人々です。住むところはないか、あっても最低限です。衣服もなく、食べ物もあまりありません。大人も子供も慢性的に空腹です。医療を受けられず、衛生設備もなく、きれいな水もなく、子供たちの受けられる教育もありません。また銀行から融資を受ける資格もありません。

極めて貧しい生活をしている人々について覚えておくべき最も大切なことは、彼らが心にまったく希望がない状態で生活しており、自分の運命に対する発言権も、自分の将来を決める力もないということです。そして、悲しいことは、彼らの社会が保護策を何も講じないことによって、彼らの期待を完全に裏切っていることです。この種の貧困は、アフリカや南アジアの多くの地域に存在するほか、世界の他地域にも点在しています。

時間の都合上、中度の貧困と相対的貧困については手短にご説明します。中度の貧困では、人々が一日2ドルから3ドルで生活しており、中南米の国々に多く見られます。相対的貧困は、ここ米国でも見られ、4人家族が一日に50ドルから60ドル以下で生活する状況と定義されています。

以上の貧困のレベルについての基本的理解をもとに、極度の貧困ゆえに今日の世界に存在する状況について、憂慮すべき数字をみてみましょう。

一日に2ドル未満で生活する人々が30億人います。これは世界人口の半数に当たります。さらに、

- 衛生設備やきれいな水のない人が26億人います。
- 学校に行ったことのない子供たちが1億4千万人います。
- 予防できるはずの原因で、毎日、約2万6千人の子供たちが亡くなります。
- 毎年250万人以上の子供たちが武力闘争で死亡するか、あるいは兵士として徴集されます。
- 200万人以上の子供たちが、そのほとんどが少女ですが、毎年売春のため、あるいは奴隷として売られます。国際的な組織犯罪の中で、これは最も急速に増加しているビジネスです。

こういった痛ましい数字で皆さんを圧倒したので、皆さんは、おそらく「一体私には何ができるのだ。一介の人間なのに」と思っていることでしょう。

友人の皆さん、ここに「一人の力」というものがあります。私もたった一人の人間です。私も、こういった数字に驚き、圧倒されています。悲しみが心が痛みます。しかし、私は、自分の仕事をする事、それがどんなに小さくても、自分の分をすることで、違いが生まれることを知っており、またそう信じています。南カリフォルニアの田舎町のただのロータリアンである私は、PACE Universal という組織を結成したいと心を動かされました。PACEはPromise of Assurance to Children Everywhereの頭文字です。ほとんどがロータリアンの仲間と私とで組織したPACEは2つのシンプルな使命を掲げて2003年に発足しました。それは、PACEを、インド、コルカタのスラム街の少女を対象とする、教育、栄養、保健、社会開発プログラムにすること、そして、他のモデルとなる初のPACE学習センターの原型を築くということです。

開始当時、初年度は、25人の少女だけにプログラムを提供するつもりでしたが、6カ月経たないうちに、80人がプログラムに参加していました。現在は借りた施設で、130名の少女を指導しています。順番待ちの少女が300人以上います。土地を購入して、恒久的な建物を建て、そこに原型的な学習センターを作る計画があります。私たちのインドのパートナーは、カルカッタ・メトロポリタン・ロータリー・クラブです。恒久的な建物の建設により、パートナーと私たちは、600人の女兒と400人の男児に教育を提供したいと思っています。

この初のセンターは、コルカタ郊外の貧しい村、ピヤリ・ジャンクションにあり、ピヤリ学習センターと命名される予定です。識字能力、きれいな水、衛生設備、太陽光オープンを地域社会にもたらすこととなります。また建物内に、診療所と歯科診療所、コンピューター学習センター、職業訓練所、マイクロクレジット・センター、現地サービスセンター、ボランティア奉仕センターが備えられます。センターの目的は、現在一日1ドル未満で生活しているピヤリ・ジャンクションの住民の生活に、持続可能な変革をもたらすことです。私たちの目標は、彼らが10年のうちに、はしごの3段目か4段目に到達できるよう援助することです。

学校ができ、プログラムが導入されたことにより、過去4年間で、既に多くの良い変化が地域社会で見られます。今後4年間で、きれいな水の得られるシステム、衛生設備、太陽光設備をはじめとする基本的なサービスを地域社会の随所に整備することで、貧しい地域社会で状況は見違えるような状況に変化するでしょう。

ピヤリ・ジャンクションで学んだ教訓は、私の所属するロータリー第5240地区で、試験的プログラムを実施する指針ともなっています。このプログラムは、メキシコ、ルーマニア、また世界中の多くの地域で、村の再生に取り組むものです。ここでも同様に複数段階・複数年のアプローチをとり、私の地区のロータリアンが資源を集めて、地域社会で足りない基本的なサービスを提供します。村人たちが自らの足で立ち上がり、先ほどお話ししたはしごを登り始めるのを助けます。

ですから、友人の皆さん、ロータリアンの行動は、一人の力がいかに作用し、一度に子供1人ずつ、地域社会1つずつ、村1つずつ変えることができるかを示す格好の実例なのです。私はこの旅を始めるにあたり、自分が世界のどこかで小さな火を灯せば、その炎に心を動かされて他の人々も同じことをしてくれると信じていました。そして間もなく、小さな炎が重なって大きなかがり火となり、私たちは、人間として容認すべきでない不公平なもの、すなわち極度の貧困の存在を根絶することができるのです。



ROTARY INTERNATIONAL®

One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, Illinois 60201 USA